

日本におけるイソップ寓話受容に関連する人物一覧 — 1912年まで —

吉見 孝夫

この「人物一覧」は、明治期（1912年）までに日本におけるイソップ寓話の受容に関連する人物ごとに、イソップ受容と関連する事項を記したものである。明治期までと限ったのは、この頃には既に「イソップ」の名が、日本においては国民的常識となりおおせていたからである。

【凡例】

- ・ 見出しは一般に通行している呼称に従ったので、姓名とは異なる場合がある。姓名不明の場合は筆名等によった。
- ・ 外国人は姓を見出しとしたが、それ以外の名が通用している場合は通称によった。
- ・ 配列は現代仮名遣いにより、姓の五十音順に従った。同音姓の場合は名の五十音順に従った。
- ・ 漢字名の多くは読みが確定できない。その場合は最も一般的と思われる読みに従った。
- ・ 難読名で読みの確例がある場合は、読みを片仮名で示した。
- ・ 欧米言語による名には、ラテン文字を付記した。キリール文字はラテン文字に転写した。
- ・ 見出し人物の生歿年が明かな場合は、カッコ内に西暦年を示した。
- ・ 解説は、一般的事績を簡略に記し、次にイソップ受容との関連を記した。著名な人物の一般的事績の記述は最小限に留めた。
- ・ イソップ受容との関連は1912年までの事実を記すことを原則とした。関連して1913以降の事実を記すこともある。時期の不明な事実は1912年以前の可能性があれば記した。

【参考文献】

事典・人名辞典類

- ・ 朝日新聞社『朝日日本歴史人物事典』（朝日新聞社、1994.11）
- ・ 市古貞次他編『国書人名辞典』（岩波書店、1993.11～1999.6）
- ・ 井上宗雄他編『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999.3）
- ・ 上田正昭他監修『日本人名大辞典』（講談社、2001.12）
- ・ 大川茂雄『国学者伝記集成』（大日本図書、1904.8）
- ・ 大村喜吉他編『英語教育史資料第5巻 英語教育事典・年表』（1980.4）
- ・ 小川貫道『漢学者伝記及著述集覧』（関書院、1935.5）

- ・ 『原色浮世絵大百科事典第二巻 浮世絵師』(大修館、1982.8)
- ・ 国史大辞典編集委員会『国史大辞典』(吉川弘文館、1979.3～1997.4)
- ・ 下中弥三郎編『大人名事典』(平凡社、1953.9～1955.9)
- ・ 竹内誠他編『日本近世人名辞典』(吉川弘文館、2005.12)
- ・ 竹林貫一『漢学者伝記集成』(関書院、1928)
- ・ 日外アソシエーツ編『20世紀日本人名事典』(日外アソシエーツ、2001.7)
- ・ 日本歴史学会編『明治維新人名辞典』(吉川弘文館、1981.9)
- ・ 北海道文学館『北海道文学大事典』(北海道新聞社、1985.10)
- ・ 安岡昭男『幕末維新大人名事典』上・下(新人物往来社、2010.5)

一般図書・論文

- ・ 有馬毅一郎・大前裕子「加納友市、その生涯と教育論[2]」(『島根大学教育実践研究』第6号、1996.3)
- ・ 市岡正一『徳川盛世録』(平凡社、1989.1)
- ・ 一宮町『一宮町史』(一宮町役場、1964)
- ・ 上野直蔵編『同志社百年史 通史編一』(同志社、1979.11)
- ・ 内田慶市『漢訳イソップ集』(ユニウス、2014.2)
- ・ 内田慶市『漢訳イソップ集拾遺』(遊文舎、2025.3)
- ・ 梅原三千『生川正香翁略伝』(生川正香翁建碑期成会、1926.12)
- ・ 江差町史編集室『江差町史』第四巻(江差町、1981.3)
- ・ 大河原欽吾『点字発達史』(培風館、1937.3)
- ・ 太田代十郎『文学士中原貞七君ノ小伝』(太田代十郎、1890.6)
- ・ 小野忠重『江戸の洋画家』(三彩社、1968.4)
- ・ 加藤康子・三宅興子・高岡厚子『イソップ絵本はどこからきたのか 日英仏文化の環流』(三弥井書店、2019.5)
- ・ 宮内庁『昭和天皇実録 第一』(東京書籍、2015.3)
- ・ 高祖敏明「明治初期翻訳教科書に関する一考察」(『上智大学教育学論集』11、1977.3)
- ・ 国立国会図書館『人と蔵書と蔵書印 一国立国会図書館所蔵本から一』(雄松堂出版、2002.10)
- ・ コリン・ビーヴァン著、茂木健訳『指紋を発見した男』(主婦の友社、2005.5)
- ・ ゴンチャロフ著・井上満訳『日本渡航記』(岩波書店、1941.4)
- ・ 坂本保富『明治初期における欧米翻訳教育書の校訂作業』(信州大学坂本保富研究室、2008.3)
- ・ 佐佐木信綱『百代草』(佐佐木信綱、1925)
- ・ 佐佐木信綱『竹柏園蔵書志』(巖松堂書店、1939.1)
- ・ 定村来人「河鍋曉斎とイソップ物語——一八七〇年代における新たな試みと展開」(『浮世絵芸術』第178号、

- 2019.7)
- ・ 新村出『新村出全集』（筑摩書房、1971.4～1973.9）
 - ・ 関儀一郎他編『近世漢学者著述目録大成』（東洋図書刊行会、1941.4）
 - ・ 反町茂雄『蒐集家・業界・業界人』（八木書店、1984.6）
 - ・ 千葉県教育会編『千葉県教育史 巻二』（千葉県教育会、1937.5）
 - ・ 土井晩翠顕彰会『土井晩翠一栄光とその生涯一』（宝文堂出版販売、1984.10）
 - ・ 東京都『東京の初等教育』（『都史紀要』19、1970.3）
 - ・ 『東京茗溪会雑誌』第五拾壹号（東京茗溪会事務所、1887.4）
 - ・ 同志社大学人文科学研究所『人文科学』第1巻第2号（同志社大学人文科学研究所、1969.8）
 - ・ 長尾史郎・高畑美代子「ヘンリー・フォールズ『ニッポン滞在の9年間—日本の生活と仕来りの概観』」（『明治大学教養論集』523号～、2017.1～）
 - ・ 秦温信『北辰の如く—関場不二彦伝—』（北海道出版企画センター、2011.3）
 - ・ 府川源一郎『明治初等教科書と子ども読み物に関する研究—リテラシー形成メディアの教育文化史』（ひつじ書房、2014.2）
 - ・ 保坂芳男「山口中学校の英語教育に関する研究—外国人講師に焦点を当てて—」（『拓殖大学研究 人文・自

- 然・人間科学研究』第43号、2020.3）
 - ・ 堀浩太郎「上羽勝衛の教科書編纂について」（『熊本大学教育実践研究』第21号、2004）
 - ・ 松阪市『松阪市史』第八巻（蒼人社、1979.9）
 - ・ 丸山知良「医師木戸麟の近代社会への貢献」（『群馬歴史散歩』第62号、1984.1）
 - ・ 『水谷不倒著作集』第八巻（中央公論社、1977.5）
 - ・ 御園生卯七編『小池民治先生及追想録』（千葉県教育会、1937.12）
 - ・ みやこ町歴史民俗博物館『博物館だより』42号（みやこ町歴史民俗博物館、2009.10）
 - ・ 宗政五十緒校注『近世畸人伝・続近世畸人伝』（平凡社、1972.1）
 - ・ 森繁夫『名家伝記資料集成』（思文閣出版、1984.2）
 - ・ 渡部温訳・谷川恵一解説『通俗伊蘇普物語』（平凡社、2001.9）
 - ・ 渡辺陽子・安部清哉「明治理科教科書執筆者としての『中川重麗』事績：明治20年まで」（『東洋文化研究』第22号、2020.3）
 - ・ Stanley J. Kunitz & Howard Haycraft.: *The Junior Book of Authors* (The H. W. Wilson Company, 1951)
- 根拠が示されている場合は、「ウィキペディア」等のウェブサイトも利用した。

愛柳子

本名不明。『幼年雑誌』『少年学術共進会』『日本全国小学生徒筆戦場』等に寄稿している。『繫駒奥州唄』（共和書店、1889.7）の著書がある。

博文館から刊行された尋常小学生向けの雑誌『幼年雑誌』第1巻第14号(1891.7)に1話のイソップ寓話を執筆し、載せる。

青木輔清

多くの教育書、語学書、啓蒙書を著している。

修身教科書『小学教諭民家童蒙解』巻之三（内藤伝右衛門、1876.12）に、1話のイソップ寓話を載せる。

青木富士

嵩山堂から『正則英語自在』（1886.11）、『英語早学』（1887.4）、『交際必携西洋礼式』（1887.5）などの著作を出している。嵩山堂は青木自身による出版社。

編著『通俗絵入学芸独案内』（嵩山堂、1887.5）、『日本西洋昔噺』（嵩山堂、1887.5）にイソップ寓話20話を載せる。

青葉山人（1864～？）

歴史に題材を採った、子ども向けの読み物を多く著作している。

1909年頃から始まる、島鮮堂から刊行された『絵入り日本お伽噺』シリーズの附録「少年教育お伽噺」の12編に12話のイソップ寓話を載せる。

青山清吉

東京小石川に青山堂という古書肆を構える。屋号は雁金屋。

阿部弘国『漢訳伊蘇普譚』（1876.10）の「出版人」。

青山正義

小学生向け教育書をいくつか著している。

修身教科書『小学修身食経俱瑤口授編』（大黒屋書舗、1884.2）、その増補版『修身口授編』（大黒屋書舗、1884.8）に3話のイソップ寓話を載せる。

秋津学人

事績不明。

1874年（明治7）5月24日付「東京日日新聞」に、歴史上の人物を「皇国」「漢土」「各国」で対比した「世界人物品評」を載せる。このコラムで「皇国」の「曲亭馬琴」に対し、「漢土」の「金聖嘆」（『水滸伝』の校訂者）、「各国」の「伊蘇普希臘」を対置する。

秋野繁吉

山形出身の堀三友が「郷人」と呼んでいるので同郷か。後述の『伊蘇普実伝』刊行の1899年当時、帝国大学生であった。

ラ・フォンテーヌの『寓話』中の「フィリギア人イソップの生涯」を翻訳した『伊蘇普実伝』（救済新報社、1899.2）の編者として堀三友と共に名を連ねる。事実上の訳者は堀と推測されるが、堀の死後、この翻訳を刊行するために尽力する。

秋原捨五郎

明治20年前後に小学校教員であったらしい。児童向け図書をいくつか著している。

横井命順との共著『小学修身教授案』（横井・秋原、1888.6）という教師用指導書に、14話のイソップ寓話を載せる。

秋元政

『生徒必携教育討論会』(弘文館、1892.8)という著書がある。

年少者向け教育読み物『教育幼稚の宝』(金桜堂、1892.5)に30話のイソップ寓話を載せる。

秋山恒太郎 (1830 ～ 1911)

越後長岡藩出身。慶應義塾で洋学を学び、東京師範学校など各地の師範学校の校長を歴任する。不羈斎の号を持つ蔵書家でもある。

『日本教育文庫』(1910)によれば、仮名草子『伊曾保物語』古活字版寛永十六年刊本を一時所蔵する。

浅尾重敏 (1863 ～ ?)

越中に生まれ、各地の尋常小学校、師範学校、高等女学校等の教諭を経て、和歌山の高等女学校長に就いている。

読本教科書『小学尋常読本』(中田清兵衛他、1894.12)に、1話のイソップ寓話を載せる。

朝倉夢声 (1877 ～ 1927)

本名亀三。大阪出身。江戸期の書物を多く収集し、江戸文化の研究に力を注ぐ。

著書『日本小説年表』(金尾文淵堂、1906.11)で、仮名草子『伊曾保物語』に言及する。整版万治二年刊本以外に古活字版の存在することを学術的に紹介した最初と思われる。

阿部弘蔵

生歿年未詳だが、1899年、旧幕府史談会に参加している。旧幕臣。開成所の教員で、渡部温の同僚。彰義隊の結成に参加し、その名付け親といわれる。維新後は慶應義塾に学び、文部省に出仕する。

読本教科書『小学読本』(金港堂、1884.11)に、13話のイソップ寓話を載せる。また教訓読み物『修身説話』(金港堂、1887.3)に53話のイソップ寓話を載せる。

阿部弘国

『啓蒙地理問答』(尚志堂、1874.5)、『女子修身訓』(原亮三郎、1881)の著書の他、英書からの翻訳書がいくつかある。

清のイソップ寓話集『伊娑菩諭言』に訓点を施した『漢訳伊蘇普譚』(青山清吉、1876.10)を刊行する。この書中の漢文による「伊蘇普小伝」は『伊娑菩諭言』ではなく、阿部の作である。

天野皎

多くの教育書を著している。

修身教科書『小学修身談』(池上儀八、1877.8)に、1話のイソップ寓話を載せる。

雨谷一菜庵アメノタニ・イッサイアン

本名幹一。少年向けの図書の他『芭蕉翁』(鳴皋書院、1901.10)、『曲亭馬琴』(鳴皋書院、1901.12)『能楽謡曲大辞典』(吉川弘文館、1931)などの編著書がある。

G.F.Townsendの*Three Hundred Aesop's Fables*の全訳としては、田中達三郎の『寓意勸懲伊蘇普物語』(木村多喜、1888.3)に次ぐ『イソップ物語』(吉川弘文館、1907.12)を刊行する。田中訳よりも原文に忠実である。

綾部乙松

梅廼家馨とも。字引や英会話本などの著書がある。

小学生向けの修身読み物『小学修身教育昔話』(瀬山佐吉、1887.10)にイソッ

ブ寓話を4話載せる。

荒井克成

英語研究社発行の英語雑誌『英語研究』の同人で、英語関係の著訳書がいくつかある。

「初等英語叢書」シリーズ中の『第三イーソップの話』（英語研究社、1913.2）の註を担当する。これは44話のイーソップ寓話を収める。

アライブンタロー

『RŌMAJI ZASSHI』第22号（1887.3）に「アリトハトノハナシ」と題してイーソップ寓話を投稿する。

荒木江村

『西洋一口噺』（吞洋堂、1906.9）という笑話集の著書がある。

文芸雑誌『万年艸』第4・5巻（1903.2・4）に4話のイーソップ寓話とイーソップ伝を執筆し載せる。

五十嵐喜広（1872～1944）

山形県出身。キリスト者松村介石の薫陶を受け、洗礼を受ける。1895年に飛騨に孤児院を開き、以後児童救済事業に献身する。広報誌『救済新報』発行のため、東京に救済新報社を設立する。

旧知の秋葉繁吉が堀三友との共訳『伊蘇普実伝』の出版に苦慮しているのを知り、救済新報社から刊行する（1899.2.1）。

生田万三

静岡県出身で、奈良県の小学校教員を務める。

修身読み物『和漢西洋聖賢事跡修身稚話』（宝文館、1887.9）に1話のイーソップ寓話を載せる。

池田亀蔵

大阪の出版社、小川畜善館から出した『粹の世の中』（1886.8）、『天狗の世の中』（1886.10）、『スペリング余師』（1887.11）などの編著書がある。

小川畜善館から出した年少者向け修身読み物『修身勸』の編著者で、初篇（1886.5）に19話、次篇（1886.11）に21話、三篇（1888.6）に16話のイーソップ寓話を載せる。

池田観

歴史書、漢文関係の編著がある。

読本教科書『新撰小学読本中等科』（東涯堂、1883.7）に、11話のイーソップ寓話を載せる。

石井音五郎

埼玉県出身。改名して石井了一とも。明治20年代に、石井福太郎といくつかの教育書を著している。

石井福太郎との共著『尋常小学修身口授教案』巻一～四（文華堂、1887.10～1888.7）という教師用指導書に、46話のイーソップ寓話をのせる。

石井研堂（1865～1943）

福島県郡山の生まれ。少年雑誌の編集者、また明治文化の研究者。特に科学読み物は当時の子どもたちに大きな影響を与える。

学齢館から刊行された児童雑誌『小国民』の編集に携わる。同誌の第1号（1889.7）に1話のイーソップ寓話の改作を載せる。

石井福太郎

埼玉県出身。明治20年代に、石井音五

郎といくつかの教育書を著している。

石井音五郎との共著『尋常小学修身口授教案』巻一～四（文華堂、1887.10～1888.7）という教師用指導書に、46話のイソップ寓話をのせる。

石川大浪（1762～1818）

旗本にして、西洋風画家として知られる。

現筑波大学蔵の仮名草子『伊曾保物語』古活字版寛永十六年刊第一種本の書入れに「大浪先生現蔵の払郎察国鏤刻の此物語りの画本よりみれば此本は其十の一也

所載甚すくなし 波爾杜瓦爾人より口授して国語にせしものなるべし 芸堂」とある。大浪の所持していたという『伊曾保物語』の十倍もの絵入りの「払郎察（フランス）」版イソップ寓話集とはラ・フォンテーヌの『寓話』か。

石原和三郎（1865～1922）

上野国勢多郡出身。1891年群馬師範学校を卒業。1896年東京高等師範学校附属小学校訓導となった後、1900年に富山房に入社し、教科書編集に携わる。「花咲爺」「金太郎」「大黒様」などの唱歌の作詞者。

富山房時代の1901年に発表された、イソップ寓話に基づく唱歌「うさぎとかめ」（「もしもしかめよ、かめさんよ」の出だしで知られる）の作詞者である。作曲者は納所弁次郎。

石丸敏一

美術書の著作を持つ。

近事画報社から刊行された少女向け雑誌『少女智識画報』の編集を担当する。同誌の第1～3号（1905.9～11）に3話

のイソップ寓話載る。執筆者は不明だが、石丸か。また同社の少年向け雑誌『少年智識画報』の編集も担当する。同誌の第3～8号（1905.11～06.4）に6話のイソップ寓話載る。これも執筆者は不明だが、石丸か。

井田秀生

数学、書道など幅広く教育書を著している。

読本教科書『国民読本』（長島為一郎他、1886.4）に、2話のイソップ寓話を載せる。

市岡正一

旧幕臣で、『徳川盛世録』（博聞社、1889.8）の著者。また多くの教科書編集に携わる。1880～1882年には民法編纂局書記官であり、法律関係書も多く著している。1900年前後には東京府の大久保村村長に就いている。

読本教科書『女学読本』（錦耕堂、1875.11）に、4話のイソップ寓話を載せる。

伊藤三右衛門

仮名草子『伊曾保物語』整版万治二年刊本の版元。

伊藤小翠

事績不明。

1907年～1910年にかけて、武田博盛堂から刊行された『少年お伽噺』シリーズ中の附録「幼年お伽噺」14編に14話のイソップ寓話の翻案を載せる。

伊藤有隣

栃木県内の教員か。小学生向けの教育書をいくつか著している。

中島操との共編の読本教科書『小学読本』巻三～六（集英堂、1881.12～1882.2）に、4話のイソップ寓話を載せる。

稲垣蝸堂

稲垣静斎とも。年少者向けの教育書をいくつか著し、またそれに自ら挿絵を描いている。

1909 頃に、島鮮堂から刊行された『明治少年お伽噺』シリーズの4編に載った4話のイソップ寓話の挿絵を描く。

稲葉翠浪

本名隣作。千葉県師範学校の卒業生であったらしい。

全129話を収める『新式イソップものがたり』（稲葉隣作、1911.4）の編者。先行のイソップ寓話集に基づきつつ大きく改変している。亡くなった友人の写真を載せるなど、私的な出版物の趣がある。

井上歌郎（1870～？）

東京帝国大学卒業後、各地の中学校等で英語を教え、新潟県立新津高等女学校長に就く。英語の参考書類を多く著す。

C.Stickney の *Aesop's Fables*（岡崎屋書店、1902）の広告に「『再版伊蘇普物語原書』（井上歌郎先生英文註釈附）」とあるが、現存は確認できない。

井上小左衛門

浅井了意によれば『悔草』（1647）の作者。同書は仮名草子『伊曾保物語』の2話を要約して載せる。

井上蘇吉

英語、ドイツ語の学習書などの著書がある。

読本教科書『小学読本』（井上蘇吉、

1885.9）、『小学読本』（敬業社、1888.6）に、それぞれ8話、15話のイソップ寓話を載せる。

今井史山（1831～1885）

本名元雄、江戸生まれで養家へ入り紀州で医業を営む。『漢画独稽古』（平井兵助、1880.11）の著書があり、絵も得意であったか。他に通俗的な教養書を著す。

著書『西洋童話』（清規堂、1873.8）に4話のイソップ寓話を載せる。挿絵も今井の手になるか。

巖谷一六（1834～1905）

近江国甲賀郡出身。1868年新政府に出仕し、以後官僚の道をたどる。1891年には貴族院議員となる。書家として有名で、明治の三筆の一人とされる。巖谷小波の父。

大槻如電に絵入り卷子本『伊曾保物語』を見せる。

巖谷小波（1870～1933）

巖谷一六の子、東京出身、本名季雄。児童文学の先駆者。

創作動物寓話集『新伊蘇普物語』（博文館、1903.10）を著す。女性向け雑誌『をんな』第4巻第11号（1904.11）、第5巻8号（1905.8）にそれぞれ1話載ったイソップ寓話を校閲する。また全160話を収める『イソップお伽噺』（三立社、1911.8）を著す。多くの話は上田万年『新訳伊蘇普物語』（鐘美堂、1907.11）に拠っている。

印藤真楯（1861～1914）

挿絵画家。1876年工部美術学校に入学し、フォンタネージに師事するが、1878年中退。画法書を著している。

34 話のイソップ寓話を収める中村徳助『世界新お伽』（精華堂書店、1909.2）の挿絵を担当する。

ウェイトリー Richard Whately（1787～1863）

オックスフォード大学教授であったイギリスの経済学者。大学を辞した後はダブリンで大主教の地位に就く。

Easy Lessons on Money Matters; for the use of young people（ダブリン、1833）を著す。これに2話イソップ寓話が引用されている。渡部温が『経済説略』（渡部温、1869）と題して、英語のままの翻刻を出版する。

上田万年（1867～1937）

尾張藩士の家に生まれた言語学者。1888年帝国大学卒業。東京帝国大学文科大学の初代の国語学教授。教え子には新村出もいる。

東京帝国大学文科大学の学内団体、帝国文学会の機関誌『帝国文学』第10号（1904.1）にイソップ寓話の改作を1話載せる。また『新訳伊蘇普物語』（鐘美堂、1907.11）を刊行する。同書は160話のイソップ寓話を収める。先行のイソップ寓話集に収載されていない寓話を多く含む。中学校国語教科書『大正改版中学読本』（大日本図書、1912.11）に、上田の『新訳伊蘇普物語』から1話を文語体に変えて載せる。

上田敏（1874～1916）

東京出身の英文学者、詩人、翻訳家。1897年東京帝国大学英文科卒。京都帝国大学教授。

大町芳衛との共著になる中学校国語教科書『新体中学国文教程』（大日本図書、1899.4）に、仮名草子『伊曾保物語』に基づく2話を載せる。1903年10月に樗牛会において「外国文学の研究」と題して講演を行い、『エソポのハブラス』を紹介する。講演内容は『時代思潮』第9・10号（1904.10・11）に収められる。1910年11月27日京都府立図書館で開かれた史学研究会の第三回総会において「伊曾保物語考」と題して講演をおこなう。日本における本格的なイソップ研究の嚆矢である。講演内容は『史学研究会講演集第四冊』（富山房、1912.4）に収められる。

上羽勝衛（1843～1916）

熊本藩の支藩宇土細川家の家臣の家に生まれる。維新後熊本洋学校教授、熊本県の官員となっている。国語、地理、歴史など多方面にわたる小学教科書類を編纂している。

アメリカのリーダーなどを抄訳した児童向け読み物『童蒙読本』（惺々軒、1873.3）に5話のイソップ寓話を載せる。

植村善作

普及舎から教科書を出していることが知られる。

読本教科書『尋常小学温習読本』（普及舎、1887.11）に、2話のイソップ寓話を載せる。

歌川貞重

太田を姓とし、通称は金次郎。文政から安政（1818～1860）にかけて活躍した浮世絵師。歌川国貞の門人。改名後の歌川国輝の名でも知られる。合巻の挿絵を

多く描く。

仮名草子『伊曾保物語』に基づく 16 話が含まれる、為永春水の動物寓話集『絵入教訓ちかみち』(1844)の挿絵を描く。

宇田川準一 (1848 ～ 1913)

洋学者宇田川興齋の子。東京師範学校教員、群馬県師範学校教頭などの職に就く。物理学関係の著訳書が多い。

英文の教科書を翻訳した読本教科書『小学読本』巻三・五(文学社、1882.9 ～ 10)に、3 話のイソップ寓話を載せる。

内田嘉一 (1848 ～ 1899)

上総出身。慶応義塾を卒業する。教科書の他、啓蒙的な書物を著す。

読本教科書『小学中等科読本』(金港堂、1882.5)、『増訂小学読本』(金港堂、1886.11)、『実用読本尋常科』(長島為一郎他、1887.3)、中根淑との共著『簡易小学読本』(金港堂、1887.9)、『小学簡易科読本』(金港堂、1887.12)に、それぞれ 7 話、9 話、5 話、2 話、1 話のイソップ寓話を載せる。

内野皎亭 (1873 ～ 1934)

本名五郎三。実業家である一方蔵書家としても名を成す。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第二種本(現龍門文庫蔵)を一時所蔵する。

ウルフ Joseph Wolf (1820 ～ 1899)

ドイツ生まれだが後にイギリスに渡り、野生動物の絵で知られた画家。

T.James の *Æsop's Fables* (1848)の挿絵を J.Tenniel と共に描く。

遠藤宗義 (1856 ～ 1940)

酒田に生まれ、1873 年新潟師範学校を卒業する。山梨県で教員をし、その後愛媛県、滋賀県の尋常師範学校長を務める。

山梨時代に栗田智城らとの共著『小学口授要説』(内藤書屋、1877.12)という教師用指導書に 33 話のイソップ寓話を載せる。

桜外生

本名等不明。

臨済宗妙心寺派の信徒団体、仏教花園婦人会の機関誌『花の園生』第 34・35 号(1893.11・12)に、4 話のイソップ寓話を翻訳して載せる。記者は「晩翠禅史」ともあり、あるいは土井晩翠と関係あるか。

大久保夢遊 (1853 ～ 1924)

本名常吉。『江湖新聞』『朝野新聞』の記者。政治小説も書いている。後に東京府小金井村村長。

日下部鳴鶴が所蔵していた卷子本『伊曾保物語』(現天理図書館蔵)から 41 話を選んで 1885 年 9 月に『絵入朝野新聞』に連載されたのを単行本に仕立て直して、『伊曾保物語』と題して 1886 年 2 月、1887 年 9 月に春陽堂から、1886 年 4 月に尚古堂から刊行する。

大蔵虎明 (1597 ～ 1662)

大蔵流宗家 13 代目の狂言師。大蔵流の狂言台本『虎明本』(1642)、狂言論『わらんべ草』(1660)を書き記す。

『わらんべ草』に、仮名草子『伊曾保物語』中の 7 話を引用する。

太田全斎 (1759 ～ 1829)

福山藩に仕えた漢学者。『漢吳音図』

(1815)、『諺苑』『俚諺集覧』などの音韻、語学面での研究に優れる。

岡本保孝の随筆『況斎雜記』によると、卷子本『伊曾保物語』を所蔵していた。これは現天理図書館蔵の三軸からなる卷子本『伊曾保物語』であると思われる。

大田南畝(1749～1823)

江戸生まれの御家人。江戸時代を代表する文人、狂歌師。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第五種本(現在は焼失)を一時所蔵する。また水谷不倒筆写の『伊曾保物語』(現天理図書館蔵)の奥書に拠れば、仮名草子『伊曾保物語』古活字版寛永十六年刊本を一時所蔵する。

大館利一

手品の種本、歴史書、字引など多ジャンルに亘る啓蒙書、実用書の編著書を持つ。

修身読み物『修身之教』(安井兵助、1888.5)にイソップ寓話に基づく23話を載せる。昔話を集めて編集した『西洋日本昔噺』(文欽堂、1888.9)に34話のイソップ寓話を載せる。初歩的な学習書『児童教育知恵宝』(刀根松之助、1891.7)に6話のイソップ寓話に基づく話を載せる。またイソップ寓話を載せる、池田亀蔵『修身勸』第三篇(小川畜善館、1888.6)の校訂者でもある。

大槻如電(1845～1931)

仙台藩の儒学者大槻盤溪の次男。著述家。

『此花』第四枝(1910.4)に絵入り卷子本『伊曾保物語』に関する「伊曾保物

語のものがたり」という随筆を書く。また仮名草子『伊曾保物語』の無刊記第二種本、寛永十六年刊第一種本を一時所蔵する。この無刊記第二種本の上巻見返しに、『伊曾保物語』の翻訳者を不干ハビアンとする旨を記す(1905.4)。

大槻盤溪(1801～1878)

仙台藩の儒学者。蘭学者大槻玄沢の子、大槻如電、文彦の父。

阿部弘国の『漢訳伊蘇普譚』(青山清吉、1876.8)に序を寄せる。

大槻文彦(1847～1928)

仙台藩の儒学者大槻盤溪の三男。最初の近代的国語辞書『言海』を編纂する。

「青木昆陽先生に就て」(帝国教育会『六代先哲』(弘道館、1909.9)所収)で、仮名草子『伊曾保物語』の諸版に言及する。

オーツボアイセキ

事績不明。オーツボイチローと同一人物か。

『RÔMAJI ZASSHI』第13号(1886.6)に仮名草子『伊曾保物語』下22話「蛙と牛の話」を投稿する。

オーツボイチロー

事績不明。オーツボアイセキと同一人物か。

『RÔMAJI ZASSHI』第19号(1886.12)に仮名草子『伊曾保物語』下32話「鹿の子と母の話」を投稿する。

大野洒竹(1872～1913)

本名豊太。医師。俳人として知られ、特に俳書の蔵書家として有名。

水谷不倒筆写の『伊曾保物語』写本(現天理図書館蔵)の奥書に拠ると、大田

南畝旧蔵の仮名草子『伊曾保物語』古活字版寛永十六年刊本を所蔵する。

大町芳衛（1869～1925）

高知市に生まれる。雅号「桂月」の名で知られる。東京帝国大学卒業後、随筆、評論で名を成す。

上田敏との共著になる中学校国語教科書『新体中学国文教程』（大日本図書、1899.4）に、仮名草子『伊曾保物語』に基づく2話を載せる。

大矢透（1851～1928）

新潟出身。各地の師範学校等で教えた後、文部省に入る。国語学者として、仮名の研究などで大きな功績を挙げる。

読本教科書『大日本読本尋常小学科』（大日本図書、1896.12）に、2話のイソップ寓話を載せる。

大和田建樹（1857～1910）

宇和島出身の作詞家、国文学者。「鉄道唱歌」「青葉の笛」などの作詞で知られる。

修身教科書『尋常小学修身訓生徒用』（大和田建樹、1892.9）に、1話のイソップ寓話を載せる。当時は高等師範学校教授を辞職し、作詩、作詞に専念していた時期で、既に「故郷の空」（1888）などの作詞者として高名であったと思われる。

岡部富太郎（1840～1895）

長州藩出身の勤王派志士。維新後は各県に出仕。

松下村塾生であった1857年、吉田松陰の命で『伊娑菩喩言』を写す。

岡村庄兵衛（1860～1923）

1899年頃から少年向けの本を中心に活動した出版社、岡村書店（岡村盛花堂）

の代表。

7話のイソップ寓話の改作を載せた小蝶山人編『少年お伽演説』（1910.6）を出版する。同書の奥付に「編輯兼発行者」として岡村の名が挙がっているので、小蝶山人は岡村本人か。また47話のイソップ寓話を載せる、馬場直美『お伽百題』（1910.10）や、馬場直美編のイソップ寓話集『新ポケット新訳イソップ物語』（1910.11）を出版する。

岡村増太郎

東京で小学校長に就き、多くの小学生向け教育書を著している。

修身教科書『尋常小学修身教科書』（博文館、1892.3）、読本教科書『小学高等読本』（阪上半七、1887.10）に、それぞれ2話、1話のイソップ寓話を載せる。

岡本可亭（1857～1919）

本名良信。伊勢出身の書家で、版下の書き手として名を成す。漫画家岡本一平の父。

児童用読み物『知識の文庫』（吉岡宝文軒、1892.1）に、3話のイソップ寓話を載せる。

岡本保孝（1797～1878）

江戸で旗本の家に生まれた国学者。号は況斎。考証に勝れる。

著書『況斎雜記』に、太田全斎が三軸の卷子本『伊曾保物語』を所有することを記す。

おきな

本名不明。

幼児教育、婦人教育のための雑誌『婦人と子ども』第5巻第5号（1905.5）に

イソップ寓話に基づく3話を載せる。

荻原朝之介

スマイルズの著書の翻訳などがある。
また文部省『尋常小学読本』(1887)の補助を担当している。

修身教科書『帝国修身軌範教師用』(博文館、1892.3)に、1話のイソップ寓話を載せる。

奥田三角 (1703 ~ 1783)

伊勢の大庄屋出身の儒者。伊藤東涯に古義学を学び、津藩で儒学を講じ、多くの門人を育てる。

現天理図書館蔵の仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第四種本を、三角かその兄竜溪が一時所蔵していた。

奥田竜溪 (1690 ~ 1767)

伊勢の大庄屋出身。奥田三角の兄。三角の津藩への登用に伴い、同藩に仕える。

現天理図書館蔵の仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第四種本を、三角か竜溪が一時所蔵していた。

小田果園 (1866 ~ 1935)

対馬に生まれ、慶応義塾で学んだ実業家。江戸時代の版本の収集家としても有名。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第二種本(現天理図書館蔵)を一時所蔵する。

尾竹越堂 (1868 ~ 1932)

新潟出身の日本画家。二人の弟、竹坡、国観と共に尾竹三兄弟と謳われ人気を得る。

1話のイソップ寓話を載せる、浅尾重敏の読本教科書『小学尋常読本』(中田清

兵衛他、1894.12)の挿絵を弟竹坡と担当する。

尾竹竹坡 (1878 ~ 1936)

新潟出身の日本画家。兄越堂、弟国観と共に尾竹三兄弟と謳われ人気を得る。

1話のイソップ寓話を載せる、浅尾重敏の読本教科書『小学尋常読本』(中田清兵衛他、1894.12)の挿絵を兄越堂と担当する。また近事画報社から刊行された少女向け雑誌『少女智識画報』の第3号(1905.11)に載ったイソップ寓話の挿絵を描く。

小津桂窓 (1804 ~ 1858)

伊勢松坂の豪商。本居春庭に入門し、また曲亭馬琴と交友を重ねる。善本の収集にも努める。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第二種本(現天理図書館蔵)を一時所蔵する。

小野辰三郎

号を筑山という。事績不明。

『伊娑菩喩言』の翻刻である前田儀作編の『漢訳批評伊蘇普物語』(湊屋、1898.7)で訓点を担当する。

小幡篤次郎 (1842 ~ 1905)

中津藩出身。同郷の福沢諭吉の塾で英語を学ぶ。開成所の教員で、渡部温と同僚。福沢諭吉の『学問のすすめ』初編(1872.2)は小幡との共著。慶応義塾第三代塾長。

2話のイソップ寓話を引用する Richard Whately の *Easy Lessons on Money Matters* (1833) を英語のまま翻刻した渡部温『経済説略』(渡部温、1869)を翻訳した『生

産道案内』(尚古堂、1870.5)、その改訂版『経済入門一名生産道案内』(丸屋善七、1877.6)を著す。

小櫃守衛

漢文学習書の著作がある。1908年頃に神奈川県立第一中学校の教員をしている。

横浜文社から刊行された小学生向けの雑誌『小学生徒之友』の発行・編集に携わる。同誌の第9～47号(1890.2～91.9)に8話のイソップ寓話を載せる。

小山田与清(1783～1847)

武蔵国多摩郡出身の国学者。養家の豪商高田家の財力を得て蔵書家として有名。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版寛永十六年刊第二種本(現彰考館文庫蔵)を一時所蔵する。

笠井鳳斎

月岡芳年門下の画家。主に挿絵で活躍している。

1907年～1910年にかけて、武田博盛堂から刊行された『少年お伽噺』シリーズ中の附録「幼年お伽噺」15編に載った15話のイソップ寓話翻案の挿絵を描く。また1909年頃に島鮮堂から刊行されだした『絵入日本お伽噺』シリーズの附録「少年教育お伽噺」15編に載った15話のイソップ寓話の挿絵を描く。

霞山子

本名等不明。後述の『羽陽之少年』の発行兼編集人である吉田左膳か。吉田は山形の教育行政に携わった人物と推測される。

山形市の羽陽少年社から刊行された少年雑誌『羽陽之少年』の第6号(1902.12)

に1話のイソップ寓話の改作を載せる。

加地為也(?～1894)

渡米経験を持つ洋画家。

アメリカの教訓書を翻訳したと思われる、『西洋教の杖』(尚古堂、1873.9)に8話のイソップ寓話を載せる。挿絵も加地の手になるか。『西洋童蒙訓』(珊瑚閣、1876.12)はその改題本。

梶田半古(1870～1917)

東京生まれの日本画家。挿絵も人気を集める。

2話のイソップ寓話を載せる、金港堂書籍の修身教科書『尋常小学単級修身訓』(1900.10)の挿絵を富岡永洗とともに担当する。また上田万年の『新訳伊蘇普物語』(鐘美堂、1907.11)の挿絵を担当する。

梶山弛一

山口県出身。滋賀県、大阪府で教育に従事していたかと思われる。地理書、作文書をいくつか編集している。

修身教科書『尋常小学修身要訓生徒用』(温故書院、1893.10)に、2話のイソップ寓話を載せる。同書によるといわゆる狼少年(嘘をついて楽しむ少年)の話が当時既によく知られていたという。

カタヤマキンイチロー

事績不明。

『RÔMAJI ZASSHI』第14号(1886.7)に「カラストキツネ」と題してイソップ寓話を投稿する。

狩野亨吉(1865～1942)

大館で久保田藩士の家に生まれる。帝國大学卒業後、旧制第四高等学校教授、

第一高等学校校長、京都帝国大学文科大学学長などを歴任する。教育者として名が高い。

仮名草子『伊曾保物語』整版無刊記本（現東北大学蔵）を一時所蔵する。

加納友市(1864～1926)

出雲出身で、島根県尋常師範学校卒業後、各地の師範学校等で教員を務める。教育書、教授法に関する著書を持つ。

小山左文二との共著になる読本教科書『高等単級国語読本児童用』（集英堂、1901.9）、『尋常単級国語読本児童用』（集英堂、1901.9）に、それぞれ2話、4話のイソップ寓話を載せる。

鎌田淵海

姓は名和とも。浄土真宗の僧侶と思われる、仏教関係の著書が多数ある。

少年向けに寓話で仏教の教説を説く『少年仏教修身はなし』（顕道書院、1892.3）を著し、21話のイソップ寓話の改作を載せる。

亀田次郎(1876～1944)

兵庫県出身の国語学者。東京帝国大学で上田万年について学ぶ。大谷大学教授。

「和刻伊曾保物語の古版本につきて」（『芸文』第3年第3号、1912.3）で、『エソポのハブラス』、仮名草子『伊曾保物語』の古活字本、万治整版本の関係を考察する。

狩谷掖斎(1775～1835)

江戸生まれの考証学者。度量衡や『倭名類聚鈔』などの考証で優れた功績を遺す。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊

記第二種本（現龍門文庫蔵）を一時所蔵する。

河島敬蔵(1859～1935)

紀州藩出身。翻訳家、英語教育者。日本で初めてシェークスピアを訳す。また多くの英語学習書を著す。

G.F.Townsend の *Three Hundred Aesop's Fables* の学習参考書『英文伊蘇普物語註釈』（浜本明昇堂、1903.1）を著す。

川田孝吉

松廼家縁とも。啓蒙的な著書をいくつか持つ。

小学生向けの修身読み物『小学生徒教育昔噺』第1～7巻（開文堂、1887.7～88.10）に合計32話のイソップ寓話を載せる。また『いろは短歌教育噺』（いろは書房、1889.4）に、1話のイソップ寓話を載せる。

河鍋曉斎(1831～1889)

下総国古河出身の絵師。歌川国芳に入門し、また狩野派にも学ぶ。戯画、諷刺画で人気を得る。

1871年沼津滞在中に、沼津兵学校教員の渡部温と知り合い、渡部の『通俗伊蘇普物語』（渡部温、1873.4）に23図の挿絵を描く。原書に基づくものも、オリジナルもある。「伊蘇普物語之内」（1873.12、1875.1）という版画シリーズを24図作成する。「曉斎楽画」（1874）という版画シリーズの内3図がイソップ寓話4話に基づいている。また木戸麟編纂の修身教科書『修身説約』（1878.9）、『小学修身書』（1881.6）の絵も担当し、それぞれに2話のイソップ寓話の挿絵がある。更に

1878 年頃の作と思われる肉筆のイソップ寓話に基づく連作が 14 図確認されている。イソップ寓話から最も創作の刺激を受けた画家の一人である。

神田孝平 (1830 ～ 1898)

美濃出身。開成所の教員で、渡部温と同僚であった洋学者。維新後は兵庫県令、貴族院議員などを歴任する。

『中外新聞』第 20 号 (1868.4)、『中外新聞外篇』巻 8 ・ 巻 11 (1868.6 ・ 7) に唐通居士の名で、それぞれに 1 話のイソップ寓話を訳す。また仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第二種本 (現龍門文庫蔵) を一時所蔵する。

神戸直吉

英語学習本や教育書を著す。

読本教科書『尋常小学新撰読本』(神戸書店、1897.12) に、1 話のイソップ寓話を載せる。

木沢成康

松本藩の儒学者木沢天童の子孫。藩校崇教館で教え、維新後東京で漢学塾を開く。易学関係を中心に、多くの著書を持つ。

丹所啓行と共著の読本教科書『簡易小学読本』(阪上半七・石塚徳次郎、1888.2) に、2 話のイソップ寓話を載せる。

岸弘毅

修身書、習字書などの著作がある。

修身教科書『小学修身用書』(成美堂、1887.10) に、6 話のイソップ寓話を載せる。

岸上操 (1860 ～ 1907)

宇都宮藩士の家に生まれる。大蔵省、

博文館を経て、江戸会を組織する。多くの編著を持つ。

江戸会編『江戸旧事考』第 3 巻 (江戸会事務所、1891.7) に「古訳伊曾保物語一節」という一文を載せ、仮名草子『伊曾保物語』整版万治二年刊本を紹介する。

木戸麟 (1848 ～ 1901)

土佐中村の商家に生まれる。大坂の華岡塾などで学び、維新後は陸軍医となる。一時群馬県、福岡県にも出仕する。

群馬県学務課委員であった当時、県令楫取素彦の指揮下で編纂した修身教科書『修身説約』(金港堂、1878.9) に、11 話のイソップ寓話を載せる。文は多く『通俗伊蘇普物語』に基づく。挿絵には河鍋暁斎の手になるものもある。本書は全国的に販売されたという。福岡県の官吏であったときに修身教科書『小学修身書』(金港堂、1881.6) を編纂し、これに 3 話のイソップ寓話を載せる。挿絵は河鍋暁斎が担当する。これも全国的に使用されたらしい。

木原季四郎

事績不明。

年少者向けの教育本『子供のをしえ』(やまと新聞社、1891.8) に、3 話のイソップ寓話の改作を載せる。

旧雨楼

本名不明。「西京の浪人」と自称するので、京都在住と思われる。

仮名草子『伊曾保物語』整版万治二年刊本の翻刻、十銭文庫第 5 編『万治旧版伊曾保物語』(百華書房、1911.5) で校注を担当する。

教育散史→堀中徹蔵

教堂散史

本名も事績も不明。教堂小史と同一人物か。

武田博盛堂から刊行された『少年お伽噺』シリーズ中の第 13 編（1908.2）の附録「幼年お伽噺」に 1 話のイソップ寓話の翻案を載せる。

教堂小史

本名も事績も不明。教堂散史と同一人物か。

武田博盛堂から刊行された『少年お伽噺』シリーズ中の第 14 編（1910.12）の附録「幼年お伽噺」に 1 話のイソップ寓話の翻案を載せる。

日下部三之介（1856～1925）

二本松藩士の家に生まる。文部省に出仕し、退官後東京教育社を創設し、国家主義的教育の論陣を張る。

読本教科書『新撰小学読本』（田沼書店、1893.11）に、1 話のイソップ寓話を載せる。

日下部鳴鶴（1838～1922）

彦根藩士の家に生まれる。明治期の三大書家の一人と称される。門下から多くの書家を輩出する。

1885 年 9 月『絵入朝野新聞』に連載された仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第二種本系の卷子本（現天理図書館蔵）を当時所蔵する。

日柳政翹 クサナギ・セイサク（1839～1903）

姓を「ヒヤナギ」とするのは誤り。勤王の博徒・漢詩人として知られる日柳燕

石の子。教育書、漢詩などの著書を多く持つ。また 1879 年には大阪模範盲啞学校を創設する。

修身教科書『修身画解』（浪華文会、1882.10）、『修身訓画読本』（浪華文会、1883.11）に、それぞれ 1 話のイソップ寓話を載せる。

久津見蔵村

事績不明。

文林会から刊行された学習雑誌『少文林』の第 2 巻第 5 号（1894.3）に 1 話イソップ寓話に基づく話を載せる。

工藤精一

英書からの翻訳書をいくつか出している。

読本教科書『新読本』（大倉保五郎、1886.9）に、3 話のイソップ寓話を載せる。

栗田智城

三重県出身で、『小学文題新編』（水谷善七、1878.11）という学習書の編著がある。

遠藤宗義らとの共著『小学口授要説』（内藤書屋、1877.12）という教師用指導書に 33 話のイソップ寓話が載る。

栗野忠雄

英書からの訳書を多く持つ。幕臣として箱館戦争に従軍し、その後福井藩で地理誌編集御用となった同姓同名の者がいるが、同一人かは不明。

C. Stickney の *Æsop's Fables* の学習参考書『伊蘇普物語直訳講義』（青野天章閣、1897.4）を著す。

栗本鋤雲（1822～1897）

幕府典医の家に生まれる。奥医師を経て幕末に外国奉行、勘定奉行、箱館奉行に就く。維新後はいくつかの新聞を拠点に言論人として活動する。

清のイソップ寓話集『伊娑菩喻言』を訓読して筆写する。この写本は現在は天理図書館が所蔵する。

クルイロフ Ivan Andreevich Krylov (1768/69 ~ 1844)

ロシアの文学者。1806 年から 1834 年にかけて執筆した『寓話』が有名で、この中にはイソップに基づいた話が含まれる。

家庭雑誌社から刊行された『家庭雑誌』第 17 ~ 19 号 (1893.11 ~ 12) に『寓話』中のイソップに基づく 12 話が笛仙子の訳で載る。これは日本におけるクルイロフの初訳と思われる。

桑木巖翼 (1874 ~ 1946)

東京で旧加賀藩士の家に生まれる。哲学者。京都帝国大学教授、東京帝国大学教授などを歴任する。

為永春水の『絵入教訓近道』(1844) にイソップ寓話があることを知って、1910 年以前に京都帝大の同僚新村出に貸与する。

桑原隲蔵 クワバラ・ジツゾウ (1871 ~ 1931)

帝国大学卒業後、旧制三高、高等師範学校を経て京都帝国大学教授となった東洋史学者。

「明清時代に於ける支那滞在の耶蘇教士」(『歴史と地理』第 1 巻第 6・8 号、1900.6・8) で、ニコラス・トリゴー (金

尼閣) 訳のイソップ寓話集『況義』に言及する。

ケイディー Chauncey M. Cady (1854 ~ 1925)

アメリカのイリノイ州に生まれる。オベリン大学神学部を卒業後、中国へ渡り、1884 年に同志社英学校に赴任する。その後旧制三高、京都一中で教壇に立つ。1911 年には帰国する。教え方は厳格であったという。英語の教科書、学習書を京都の Orphan Industrial Press から刊行している。同社はケイディーの創設になると思われる。

イソップを教材にした平易な英語教科書 *The Series-Form of Aesop's Fables Part 1, Part 2* (Orphan Industrial Press、1901) を著している。Part 1 には 25 話、Part 2 には 30 話のイソップ寓話を載せる。

ゲーラールツ→ヘーラルツ

小池清

1890 年前後に「小池清」の著作がいくつかあるが、同一人物かは確定できない。他の事績は不明。

修身読み物『通俗修身談』(共同出版社、1891.10) に 17 話のイソップ寓話を載せる。

小池民次 (1858 ~ 1936)

浜松藩士の家に生まれる。1878 年千葉師範学校卒業。主に千葉県内で教育に従事し、県内高等女学校の校長を歴任する。一方で小学校用の修身教科書を編纂する。

辻敬之との共著、読本教科書『初学読本』(辻敬之、1881.4) に 1 話のイソップ寓話を載せる。また修身教科書『尋常科

生徒用初学修身書』（至誠館、1893.8）に
9話のイソップ寓話を載せる。

江東散史→吉沢富太郎

小島安太郎（1867？～？）

教科書のための字引や軍歌本を著しているのが知られる。『東京の初等教育』（東京都『都史紀要』19、1970.3）に「小島安太郎」名の履歴書がある。この人物ならば、1867年生まれで、東京外国語学校で学んでいる。

修身読み物『修身のすゝめ』（錦江堂、1895.2）に、7話のイソップ寓話に基づく話を載せる。

小蝶山人

本名不明。岡村書店の代表、岡村庄兵衛か。

少年向け修身読み物『少年お伽演説』（岡村書店、1910.6）に7話のイソップ寓話の改作を載せる。

小寺弥彦

フレーベル会の刊行した幼児教育・婦人教育の雑誌『婦人と子ども』で記事を執筆している。

『婦人と子ども』第6巻第9号（1906.9）に「弥彦」名で1話イソップ寓話の改作が載る。姓は不明だが小寺の執筆と思われる。

小中村清矩（1822～1895）

江戸に生まれ、本居内遠に入門した国学者。東大教授に就き、また『古事類苑』の編纂に携わる。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第二種本（現龍門文庫蔵）を一時所蔵する。

小林永濯（1843～1890）

江戸に生まれ、狩野派に学んだ日本画家。挿絵も多く手がける。

省己遊人『西洋稚児話の友』（中外堂、1873.8）中の2話のイソップ寓話の挿絵を描く。

小松忠之輔

小学校の教員。1887年には東京の第一寺島小学校長に就く。教師用指導書『参考用書小学修身叢談』（温故堂 1887.10）を著す。

読本教科書『尋常読本』（内藤恒右衛門、1887.12）に1話のイソップ寓話を載せる。

小山左文二

実用的な教育書を多数著している。

武島又次郎との共著になる読本教科書『新編国語読本尋常小学校児童用』（普及舎、1901.6）、『新編国語読本高等小学校女児用』（普及舎、1902.2）、加納友市との共著『高等単級国語読本児童用』（集英堂、1901.9）、『尋常単級国語読本児童用』（集英堂、1901.9）に、それぞれ3話、2話、2話、4話のイソップ寓話を載せる。

ゴンチャロフ Ivan Alexandrovich Goncharov（1812～1891）

ロシアの作家。プチャーチン提督の秘書官として1853年に長崎に来航している。

内田慶市によれば、1853年上海で手に入れた『伊娑菩喩言』を穴戸磯周辺の人物に与えたと推測される。

近藤重蔵（1771～1829）

江戸で幕臣の家に生まれる。蝦夷地、

国後島、択捉島を踏査した探検家として知られる。一方で書物奉行に就き、書籍に関する著作も遺す。

著書『好書故事』に、向井元仲の『長崎書物改ノ旧記』を引用し、イソップ寓話を載せる明代の『畸人十篇』『七克』『況義』が禁書であることを記す。

西園寺実輔（1661～1685）

権中納言に就いた公卿。

延宝5年（1677）に仮名草子『伊曾保物語』を筆写する。この卷子本一軸は現在天理図書館が所蔵する。

西園寺寛季（1787～1856）

権中納言に就いた公卿。出家して入道寛道とも。

西園寺家に伝わる西園寺実輔筆写の仮名草子『伊曾保物語』の卷子本一軸（現天理図書館蔵）を、天保13年（1842）三浦茂樹に与える。

堺利彦（1870～1933）

豊前仲津郡出身。社会主義者のジャーナリスト。『万朝報』の記者であった1903年4月に由分社から『家庭雑誌』を創刊する。同年11月には日露非戦論を唱えて、内村鑑三、幸徳秋水と共に朝報社を辞する。

『家庭雑誌』第1・2号（1903.4・5）に各2話のイソップ寓話が載る。訳者名はないが、堺の執筆と思われる。

榊篁邨（1823～1894）

藤堂藩士の家に生まれる。本名令輔。蕃書調所、維新後の沼津兵学校で渡部温と同僚。洋画を学び、ワーグマンとも接触があったらしい。

渡部温『通俗伊蘇普物語』（1873）に3図挿絵を描く。いずれも原本である T. James の *Aesop's Fables* の挿絵に基づく。

榊信一郎

少年向けの学習書をいくつか著作している。東京の出版社、少年園から刊行された児童向け雑誌『こども』の編集に携わる。

『こども』の第2～13号（1890.2～91.3）に13話のイソップ寓話を載せる。

坂田耕雪（1871～1935）

金沢生まれ、尾形月耕に師事した浮世絵師。1896年に大阪毎日新聞社に入社し、1909年に退社するまで新聞小説の挿絵を担当する。

明治40年前後、水谷不倒が試みた仮名草子『伊曾保物語』の校訂本の挿絵を手がけるが、これは未完に終わる。

嵯峨の屋おむろ（1863～1947）

江戸生まれ、本名矢崎鎮四郎。東京外国語学校ロシア語科を卒業し、坪内逍遙門下となって創作活動を始め、またロシア文学を翻訳する。

家庭雑誌社から刊行された『家庭雑誌』第20号（1893.12）にロシア詩人ドミートリエフの、イソップに基づく1話の寓意詩を訳し載せる。

佐佐木信綱（1872～1963）

歌人、国学者の佐々木弘綱の長男として三重県に生まれる。歌人、国文学者として文化勲章受章。また貴重な古文献を多く所蔵する。

以下の仮名草子『伊曾保物語』の写本5種、古活字本1種を一時所蔵する。①

寛永頃書写と思われる写本。②日下部鳴鶴が所有していた古活字版無刊記第二種系の三軸の卷子本写本（現天理図書館蔵）。③伝中院大納言通茂筆の写本（現天理図書館蔵）。佐佐木に依れば、通茂の書風とは異なる。④「培達堂」「菅譜蔵之」等の印記のある写本。⑤伝西園寺権中納言実輔筆の一軸の卷子本写本（現天理図書館蔵）。⑥古活字版無刊記第四種本（現天理図書館蔵）。

佐沢太郎（1838～1896）

備後に生まれ、開成所の教員を経て、維新後は文部省に出仕し、フランス語からの翻訳書を手がける。また『遠近新聞』の発行にも関与する。

修身教科書『普通小学修身口授書』（集英堂、1886.4）に、3話のイソップ寓話を載せる。また読本教科書『尋常小学第四読本』（文栄堂、1886.11）、『高等小学第二読本』（文栄堂、1887.5）に、それぞれ1話、2話のイソップ寓話を載せる。

サトウ Ernest Mason Satow（1843～1929）

イギリスの外交官。1862年に通訳として来日し、幕末・維新の動乱期の現場に立ち会う。1895年には駐日イギリス公使となる。日本の古書の収集家であり、また日本文化研究者としてキリシタン版の先駆的な研究などで大きな功績を挙げる。

著書 *The Jesuit Mission Press in Japan* (1888) で、キリシタン版の『エソポのハブラス』を紹介する。学術的な紹介としては初めてといえる。また仮名草子『伊曾保物語』整版無刊記本（現ケンブリッ

ジ大学蔵）を一時所蔵する。

佐藤潔

事績不明。

C. Stickney の *Æsop's Fables* の全126話を翻訳し、『正訳伊蘇普物語』（小川尚栄堂、1907.12）の名で出す。

佐藤治郎吉

『少年宝庫日本男児』（東京堂、1891）という少年向け読み物を著している。

創作動物寓話集『少年書類新伊蘇普物語』（博文館、1892.3）を著し、1話イソップ寓話に基づく話を載せる。

沢久次郎

子ども向けの絵入り時代物などを、自らの手で多く出版している。

修身読み物『修身宝之友』（沢久次郎、1890.10）に、4話のイソップ寓話を載せる。

沢井整平

1886年に大阪中学校教諭であったことが知られる。

修身読み物『修身小学』（育徳堂、1873.5）にイソップ寓話を5話載せる。

沢辺慶作

地理関係の著作がいくつかある。

修身教科書『学校用修身書』巻之一～三（成美堂、1889.5～91.3）に、7話のイソップ寓話を載せる。

ジェームス Thomas James（1809～1863）

後述以外の事績不明。

1848年ロンドンの John Murray 社から全203話の *Æsop's Fables* を刊行する。John Tenniel、Joseph Wolf の挿絵を付す。版により多少の相違があり、イギリスに

留学していた外山正一が 1863 年版を日本に持ち帰り、友人渡部温に示した。渡部はこれを英語のまま翻刻し『英文伊蘇普物語』(渡部温、1872)として出版する。更にジェームス本を中心に翻訳して『通俗伊蘇普物語』(山城屋、1873.4)を出版する。当時東京外国語学校校長であった渡部は、生徒の中田敬義に『通俗伊蘇普物語』の中国語への翻訳を促し『北京官話伊蘇普諭言』(渡部温、1879.4)を出版する。後には改訂版の『改正増補通俗伊蘇普物語』(渡部温、1888.12)、その英語原文の翻刻『改正増補伊蘇普物語原書』(渡部温、1888)も出版される。

鹿都部真顔 (1753 ～ 1829)

通称北川嘉兵衛。戯作者として黄表紙、洒落本を著す。また狂歌師として名を成す。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第一種本(現東洋文庫蔵)を一時所蔵する。

重野安繹(1825 ～ 1910)

薩摩出身。実証主義的な歴史学を唱え、学界の権威者となる。帝国大学教授、貴族院議員。

修身教科書『尋常小学修身』(八尾書店、1892.7)に、1話のイソップ寓話を載せる。

穴戸璣 (1829 ～ 1901)

長州藩士、維新後は明治政府高官。世衡、敬宇と号す。

清のイソップ寓話集『伊娑菩諭言』を 1856 年に写し、その感想を記す。更に同書を吉田松陰に示す。これを松陰が岡部

富太郎に写させる。また駐清公使館員中田敬義が『北京官話伊蘇普諭言』(渡部温、1879.4)を出した当時の駐清公使。

獅虫寛慈

奈良県出身で、演説本を二種著していることが知られる。

修身読み物『知育徳育修身稚話』(圭文堂、1892.12)に、1話のイソップ寓話を載せる。

失名氏

本名、事績は不明。

『早稲田文学』1907 年 4 月号で中尾傘瀬が「イソップ物語と毛利元就遺訓」で展開した、元就の「三本の矢」の遺訓をイソップ由来とする説に対し、同誌同年 6 月号に載せた「イソップと元就遺訓の別考」と題した文章で疑問を呈する。

篠田正作

修身読み物、受験参考書、実用書、軍歌集など多方面に亘る書籍を著している。

子ども演説読み物『少年教育子供演説』(鐘美堂、1891.5)、その増補版『少年教育子供演説指南』(鐘美堂、1892.1)に、1話のイソップ寓話を載せる。また修身読み物『少年教育修身実話』(鐘美堂、1892.1)に、1話のイソップ寓話に基づく話を載せる。

斯波計二

出版社学友館を創設したと思われる。

修身読み物『修身教育子供演説』(学友館、1889.12)に、2話のイソップ寓話を載せる。『智恵之競争子供演説』(学友館、1890.3)に、3話のイソップ寓話を載せる。

司馬江漢（1747～1818）

本名安藤吉次郎。江戸に生まれ、西洋絵画を学び、日本で初めて銅版画を制作した絵師。蘭学にも通じ、随筆等の著作も多い。

随筆『春波楼筆記』（1811）、『無言道人筆記』（1814）、絵入り教訓書『訓蒙画解集』（1814）に、それぞれ仮名草子『伊曾保物語』中の3話、5話、4話の要約を載せる。また『伊曾保物語図』（1811頃）に仮名草子『伊曾保物語』から1話引用し、その絵を描く。

島崎友輔（1865～1937）

儒者島崎酔山の子として江戸に生まれる。松本楓湖らに学び、島崎柳塢の名で知られる日本画家。

読本教科書『初学第七（八）読本』（興文社・前川善兵衛、1888.1）に、2話のイソップ寓話を載せる。

下田歌子（1854～1936）

美濃岩村藩士の家に生まれる。宮中に仕えた後、歌人また女子教育の先駆者として名を成す。

読本教科書『国文小学読本』（十一堂、1887.8）に、1話のイソップ寓話を載せる。当時は華族女学校学監であり、さほど高名ではなかったと思われる。『少女文庫第壱編お伽噺教草』（博文館、1901.8）に、1話のイソップ寓話を載せる。

省己遊人

姓を「楯岡」とする以外は不明。

ヨーロッパの子ども向けの話を読みまとめた『西洋稚児話の友』（中外堂、1873.8）を著す。これにイソップ寓話11話を載せ

る。

昭和天皇（1901～1989）

在位 1926～1989。

『昭和天皇実録第一』（東京書籍、2015.3）には、迪宮裕仁時代に「この頃、物語創作を御発案になり、この日『裕仁新イソップ』と命名される」（1912.3.16）とある。また大正期になるが「皇太子は『白熊と獅子』の題にてお話しになる。頃日、しばしば物語を創作され、将来『新イソップ』様のお伽噺を作成されたき旨を側近に語られる」（1913. 1.18）とある。当時、同様の創作に励んだ少年、少女たちも多かったであろう。そういった事実が記録に残った稀な例である。

蜃気楼主人

本名等不明。

博文館から刊行された尋常小学生向け雑誌『幼年雑誌』第1巻第6号（1891.3）に1話のイソップ寓話の翻案を執筆し載せる。

新保磐次（1856～1932）

越後出身。高等師範学校教授の後、金港堂に入り、教科書編集に携わる。

読本教科書『日本読本』（金港堂、1886.2）、三宅米吉との共著による『高等日本読本』（金港堂、1888.5）、林吾一との共著による『温習日本読本』（金港堂、1888.8）に、それぞれ3話、6話、5話のイソップ寓話を載せる。

新村出（1876～1976）

山口県令関口隆吉の子として山口に生まれる。東京帝国大学を卒業し、京都帝国大学教授となった言語学者。文化勲章受章。一般には『広辞苑』の編者として

知られる。日本でのイソップに関する資料を多方面に亘って発掘し研究する。

新村のイソップ研究は厩大だが、以下には 1912 年までの事績のみを記す。1908 ～ 09 年のヨーロッパ留学中に大英博物館図書室（大英図書館）で『エソポのハブラス』を筆写する。同書を「西洋文学翻訳の嚆矢」（『太陽』、1910.4）で紹介し、翻刻を『芸文』に連載する（1910.4 ～ 12）。その翻刻を『文禄旧訳伊曾保物語』（開成館、1911.6）と題して出す。『伊曾保物語』校訂の後に」（『芸文』、1911.7）を執筆する。

末松謙澄（1855 ～ 1920）

豊前出身。東京日日新聞記者を経て明治政府に出仕し、英国留学の後、政治家、歴史学者として名を成す。

法制局長官であったときに修身教科書『小学修身訓生徒用』（精華舎、1892.4）、その改訂版『新定小学修身訓生徒用』（精華舎、1894.6）に 1 話のイソップ寓話を載せる。

菅野徳助（1870 ～ 1915）

石巻に生まれる。1898 年に東京英語専修学校に入学、その後渡米し、帰国後早稲田大学で教壇に立つ。多くの訳註書を出し、中でも『悲劇オセロ』（有朋堂書店、1909.3）は高く評価されている。

C. Stickney の *Æsop's Fables* から 86 話を選び註釈を付けた、青年英文学叢書『伊蘇普物語 一・二』（三省堂、1911.8、1913.11）を著す。共訳者奈倉次郎。

菅野緑蔭

事績不明。

上田万年『新訳伊蘇普物語』（鐘美堂、1907.11）の本文作成に協力する。

杉山文悟

教科書、教育書をいくつか著している。

学習書『幼年宝玉』（普及舎、1889.9）に、1 話のイソップ寓話を載せる。

杉山孫之助

英語研究社発行の英語雑誌『英語研究』の同人で、同社の「初等英語叢書」シリーズのいくつかを担当する。

「初等英語叢書」シリーズ中の『第二イソップの話』（英語研究社、1911.6）の註を担当する。これは 35 話のイソップ寓話を載せる。

鈴木幹興

教科書、児童向け教育書をいくつか著している。

三田利徳と共編の読本教科書『啓蒙小学読本』（光風社、1885.6）に、2 話のイソップ寓話を載せる。

鈴木毅一（1877 ～ 1926）

静岡県掛川の出身。東京音楽学校で滝廉太郎と知り合い、以後親交を結ぶ。

東基吉『家庭童話母のみやげ』（同文館、1905.10）に載った、イソップ寓話に基づく東作詞の唱歌「兎と亀」の作曲者。現在でも歌われる「うさぎとかめ」とは異なる。

鈴木源四郎

文廼家主人とも。日本史に題材を採った少年向けの図書を多く著している。須永金三郎、西村寅二郎も文廼家主人を称するが、三者の関係は不明。

少年向け修身読み物『少年教育修身は

なし 動物の巻』(大川屋書店、1911.3)
「本編」に 95 話、「附録」に 18 話のイソップ寓話を載せる。内容は先行図書からの寄せ集めに近い。

鈴木青溪 (1869 ~ 1943)

本名常松、また春湖の号も持つ。出版社積善館の代表者で、同社からは教育書を中心に多くの出版物が刊行されている。

「鈴木青溪訳」と銘打って積善館から『新訳伊蘇普物語』(1892.5)を刊行する。ただし同書は前年に積善館から出た渡辺松茂『家庭教育修身はなし』(1891.12)『家庭教育幼年修身はなし』(1891.12)を合冊しただけの改題本。

鈴木正士

英語研究社発行の英語雑誌『英語研究』の同人で、英語関係の著訳書がいくつかある。同社の「初等英語叢書」シリーズのいくつかを担当する。

「初等英語叢書」シリーズ中の『第二イーソップの話』(英語研究社 1911.6)、『第三イーソップの話』(英語研究社、1913.2)の訳を担当する。前者は 35 話、後者は 44 話のイソップ寓話を載せる。

鈴木三重吉 (1882 ~ 1936)

広島市出身の児童文学者。漱石門下で、『赤い鳥』を創刊し、自ら創作するとともに、多くの児童文学者を誕生させる。

中学生時代に「あほう鳩」というイソップに触発された動物寓話を『少年倶楽部』第 3 巻 (1897.5) に発表する。

鈴木唯一 (1845 ~ 1909)

江戸生まれの英学者。箕作麟祥に英語を学ぶ。開成所の教員で、渡部温と同僚。

『遠近新聞』の発行に参加する。維新後は文部省にあつて主に翻訳の業に従事する。

「遠近新聞」第 27 号 (1868.5.30) に、「弥堅外史」の名で 2 話のイソップ寓話を訳し載せる。

スティックニー Charles Stickney

Rev.の肩書きがあるので reverend (聖職者)であったか。ただし、後述するとおり、実在したか疑わしい点がある。

126 話を収めた *Æsop's Fables* を刊行する。本書は 1887 年以降 1912 年までに、吉岡書店、富山房、小川尚栄堂、金刺書店、岡崎屋書店、興文社など多くの出版社から刊行され、旧制中学において英語の教科書として広く利用された。これの学習参考書も多数出版されている。しかし、英語圏で出版された形跡はない一方、Jenny H. Stickney の *A child's version of Æsop's Fables* (Ginn & Company、1886。挿絵は Charles Livingstone) と 125 話が共通し、本文も事実上同文である。内田慶市はこの著者の Stickney と挿絵担当者の Charles とを取り合わせた名の可能性を指摘している。

スティックニー Jenny H. Stickney (1840 ~ ?)

アメリカのボストンの出版社 Ginn & Company から出されたアンデルセン童話集など多くの子供向け読み物の編著者となっていることが知られる。

A child's version of Æsop's Fables (Ginn & Company, 1886) を刊行する。明治期に日本に伝わった形跡はないが、これとほ

ば同内容の本が Charles Stickney の著者名で日本では 1887 年以降しばしば刊行され、英語教科書として広く利用された。

須永金三郎 (1866 ~ 1923)

足利出身。1890 年東京専門学校卒業後博文館に入り、『日本之少年』の主筆となる。文廼家主人と称する。

「文廼家主人」を称した人物は複数いるが、博文館から刊行された尋常小学生向けの雑誌『幼年雑誌』の第 1 巻第 3 号 (1891.2) に 1 話のイソップ寓話を訳した「文廼家主人」は当時博文館にいた須永と思われる。

関貢米 セキ・クメ (1866 ~ 1937)

関貢米、関露香の名で英語関係などの著作がある。

C.Stickney の *Aesop's Fables* から 94 話を選んで英語原文を載せた旧制中学校向けの英語教科書 *Stickney's Aesop's fables* (小川尚栄堂、1901.10) を編集する。1913 年に第 21 版が出ており、広く普及したもののと思われる。

尺秀三郎 セキ・ヒデサブロウ (1862 ~ 1934)

江戸に生まれ、洋学者尺振八の養子となる。ドイツに留学し教育学を学ぶ。東京外国語学校教授。

編輯主任となって編纂した読本教科書『尋常小学読本』(文部省編輯局、1887.4) に、5 話のイソップ寓話を載せる。

関川平四郎 (1707 ~ 1767)

関川家は、天和年中 (1681 ~ 1683) に越後国頸貴郡関川郷から松前に移住し、江差姥神町に定住し、関川屋を名乗って

造酒屋、廻船問屋を営んだ松前藩内第一の豪商。平四郎は二代目。

「享保十七壬子年五月十一日 関川平四郎」の署名がある仮名草子『伊曾保物語』古活字版寛永十六年刊第二種本 (現天理図書館蔵) を一時所蔵する。これはその後フランク・ホーレー、岡田真、天理図書館と所有者が変わった。

関場不二彦 (1865 ~ 1939)

会津若松で会津藩士の家に生まれる。1889 年帝国大学医科大学卒業。北海道医学界の先駆者で北海道医師会初代会長。数え 14 歳でドイツ語を学び始める。

少年園という出版社から刊行された日本最初の本格的少年雑誌『少年園』第 46 号 (1890.9) に、ドイツ語の文献に基づいたイソップ伝を執筆する。

是洞能凡類 ゼドウ・ノボル

明治初期に英書からの翻訳書、農学書を手がけている。

英書を翻訳した修身読み物『童蒙修身心廼鏡』(一貫堂、1873.8) に 1 話のイソップ寓話を載せる。

瘦々亭骨皮道人→西森武城

曾我休自

仮名草子『為愚痴物語』(1662) の作者としか伝わらず。

同書に仮名草子『伊曾保物語』に基づく 1 話を載せる。

タウンゼント George Fyler Townsend (1814 ~ 1900)

イギリスの聖職者だが、イソップ寓話の翻訳者として知られる。アラビアンナイトを訳してもいる。

ギリシア語から英訳したイソップ寓話集 *Three Hundred Æsop's Fables* (G.Routledge、1867) を出す。全 313 話、Harrison Weir の挿絵を付す。日本へはイギリスへ留学していた福沢英之助が 1868 年に持ち帰ったのが最初。いくつかの版があり、版により寓話順などに多少の異同がある。明治期に最も翻訳されたイソップ寓話集である。

抄訳には、福沢英之助『訓蒙話草』(福沢英之助、1873.12)、渡部温『通俗伊蘇普物語』巻六(山城屋、1873)、『改正増補通俗伊蘇普物語』(渡部温、1888.12)、百島操『イソップ物語』(内外出版協会、1908.12)がある。全訳には田中達三郎『寓意勸懲伊蘇普物語』(木村多喜、1888.3)、雨谷一菜庵『イソップ物語』(吉川弘文館、1907.12)がある。英語原文の翻刻もあり、渡部温『改正増補通俗伊蘇普物語原書』(渡部温、1888)に 70 話、積善館の *Æsop's Fables* (1899. 9)には全 313 話が収録されている。注釈書には、河島敬蔵『英文伊蘇普物語註釈』(浜本明昇堂、1903.1)がある。

高井コスメ

イエズス会の日本人イルマン。細川ガラシャに聖書の内容を教えたとの伝がある。

『エソポのハブラス』の编者とする説がある。

高木敏雄 (1876 ~ 1922)

熊本県生まれの神話学者。東京高等師範学校教授、大阪外国語大学教授などを歴任する。

創作動物寓話集『新イソップ物語』(宝文館、1912.3)を著す。

高階柳陰

雑誌『文芸倶楽部』に小説をいくつか発表している。また雑誌『をんな』『女学講義』に、お伽話の類を執筆している。巖谷小波周辺の人物か。

大日本女学会が刊行する女子向けの雑誌『をんな』第 4 巻第 11・第 5 巻第 8 号(1904.11、1905.8)に「教訓 御伽百譚」と題し、2 話のイソップ寓話を訳し載せる。いずれも巖谷小波の校閲を得ている。

高橋熊太郎

府川源一郎に拠れば、栃木県の教員であつたらしい。教科書、教育書を多く著している。

読本教科書『普通読本』(集英堂、1886.11)、『高等科用普通読本』(集英堂、1887.5)に、それぞれ 2 話、1 話のイソップ寓話を載せる。

高原徹也

事績不明。

遠藤宗義らとの共著『小学口授要説』(内藤書屋、1877.12)という教師用指導書に 33 話のイソップ寓話が載る。

滝村弘方 (1868 ~ 1889)

本名次郎吉。河鍋曉斎の弟子で、錦絵、挿絵が残っている。挿絵画家尾形月耕の弟。

『絵入朝野新聞』に 1885 年 9 月連載された「旧訳伊曾保物語」のうち 27 話に挿絵を描く。オリジナルの絵で、動物に手足を付け、衣服を着せた擬人化の手法を採る。

武島又次郎 (1872 ～ 1967)

東京に生まれ、武島羽衣の名でも知られる。東京帝国大学卒業後、いくつかの大学で国文学を講じる。また歌人、作詞家としても著名。

小山左文二との共著になる、読本教科書『新編国語読本尋常小学校児童用』（普及舎、1901.6）、『新編国語読本高等小学女児用』（普及舎、1902.2）に、それぞれ3話、2話のイソップ寓話を載せる。また中学校国語教科書『中学帝国読本』（金港堂書籍、1902.12）に、仮名草子『伊曾保物語』の1話を載せる。

武内馬溪タケノウチ・バケイ

本名一郎。『柳北仙史熱海文藪』（1884）、『横須賀港独案内』（1888）の編著がある。後述の「伊曾保物語」連載時、絵入朝野新聞社員。

絵入朝野新聞社にあって、日下部鳴鶴所蔵の卷子本『伊曾保物語』の42話を『絵入朝野新聞』に1885年9月に連載する。

竹村友治郎

事績不明。

大久保夢遊編『伊曾保物語』（春陽堂、1886.2）を改版して改進黨から1888年12月に竹村編として刊行する。絵も少し修正する。

田沢宗伯 (1781 ～ 1850)

幕臣の家に生まれる。医師となる一方、塙保己一らの文人とも交わる。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第二種本（現龍門文庫蔵）を一時所蔵する。

立原翠軒 (1744 ～ 1823)

水戸に生まれ、彰考館総裁に就き『大日本史』の編纂に従事する。

オランダ通事榎林重兵衛を水戸に招き、その聞書『榎林雑話』（1799）を録す。同書に「イソホものがたりと云書は、昔イソフヒスと云書の和解なり、古書也」とある。

田中鎌太郎

算術書を著していることが知られる。

修身読み物『家庭修身教育話』（松本正次郎他、1892.5）に、12話のイソップ寓話を載せる。

田中達三郎

後述以外の事績不明。

『寓意勸懲伊蘇普物語』（木村多喜、1888.3）の著訳者。後に有斐閣からも刊行される。G.F.Townsend の *Three Hundred Aesop's Fables* の最初の全訳であるが、忠実な翻訳とは言い難い。訳文は渡部温の『通俗伊蘇普物語』の影響を受けている。11図の挿絵は原本に基づく。

田中義廉 (1841 ～ 1879)

信濃に生まれ、蘭学、英語、フランス語を学ぶ。彰義隊にも参加するが、維新後は文部省に出仕し、小学校教科書の編纂に従事する。退官後も多くの教科書編集に携わる。

近代の国語教育の出発点といわれる、読本教科書『小学読本』（文部省、1873.3）その改正本『小学読本（大改正本）』（文部省、1874.8）に、また退官後の『小学読本（私版本）』（猫窠書屋など、1877.3）に、2話のイソップ寓話を載せる。

為永春水 (1790 ～ 1843)

本名佐々木貞高。『春色梅児誉美』などで知られる、人情本作者を代表する戯作者。

動物教訓書『絵入教訓近道』(1844)を著し、その中に仮名草子『伊曾保物語』に基づく16話を載せる。

丹所啓行(1839～?)

安中藩士の家に生まれる。1877年東京師範学校卒業。東京府内で番町小学校長に就くなど小学校教育、教育行政に従事する。教科書、教育書の編集にも携わる。

前川一郎との共編による修身教科書『普通小学修身談』(集英堂、1886.7)、木沢成肅との共編による読本教科書『簡易小学読本』(阪上半七・石塚徳次郎、1888.2)に、それぞれ2話のイソップ寓話を載せる。

樗樸道人

本名等不明。

『鄙都言種』後篇の作者で、同書に仮名草子『伊曾保物語』の1話を引用する。

塚原靖ツカハラ・シズム(1848～1917)

幕臣の家に生まれる。渡部温が教官であった沼津兵学校で学んだ後、新聞記者を経て、新聞小説で人気を得る。小説家としては塚原渋柿園の名で知られる。

読本教科書『小学中等課児読本』(教育書房錦森閣、1885.2)、『女子読本』(金港堂、1885.9)に、それぞれ1話、3話のイソップ寓話を載せる。

塚原苔園

漢詩・漢文に関する書籍、実用的啓蒙書を著している。

読本教科書『新体読方書』(石川教育書

房・前川書房、1886.6)に、1話のイソップ寓話を載せる。

辻敬之(?～1892)

1877年に東京師範学校を卒業し、1882年に出版社普及舎を設立し、教科書など教育書を多く出版する。

小池民次との共著、読本教科書『初学読本』(辻敬之、1881.4)に1話のイソップ寓話を載せる。また山名留三郎らとの共著『錦絵修身談』(普及舎、1882.3)に2話のイソップ寓話に基づく話が載る。

辻本三省

事績不明。

修身読み物『家庭教育修身少年美談』(積善館、1894.3)に、3話のイソップ寓話を載せる。

角田竹冷(1856～1919)

姓はスミダが正しいとされるが、通称はツノダ。本名真平。駿河出身の弁護士。俳人、蔵書家として名を成す。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第四種本(現天理図書館蔵)を一時所蔵する。

坪内逍遙(1859～1935)

尾張藩士の家に美濃で生まれる。本名雄蔵。小説家、またシェークスピア全訳を成し遂げた英文学者。

『英文評釈』(東京専門学校出版部、1893・94頃)、『文学叢書英詩文評釈』(早稲田大学出版部、1902.6)に「訓法手引」の例としてイソップ寓話 The Bundle of Sticks を引用する。読本教科書『読本尋常小学生徒用書』(富山房、1899.12)、『国語読本尋常小学校用』訂正再版(富山房、

1900.9)、『国語読本高等小学校用』(富山房、1900.10)、『国語読本尋常小学校用』訂正三版(富山房、1901.7)、『国語読本高等科女子用』(富山房、1901.7)に、それぞれ7話、5話、1話、6話、1話のイソップ寓話を載せる。また西村酔夢に書かせた『少年世界文学第五編イソップのはなし』(富山房、1902.12)を校閲する。

笛仙子

本名等不明。

家庭雑誌社から刊行された『家庭雑誌』第17～19号(1893.11～12)にクルイロフの、イソップに基づく12話の寓話を訳し載せる。ロシア語からの直訳か他言語からの重訳かは不明だが、クルイロフ翻訳としては最初期である。

テニエル John Tenniel (1820～1914)

Alice's Adventures in Wonderland (『不思議の国のアリス』)の挿絵で知られるイギリスの画家。

T.James の *Æsop's Fables* (John Murray、1848)の挿絵を描く。『通俗伊蘇普物語』の挿絵の多くもテニエルの原画に基づく。

天籟山人

「天籟(山人)」を称する人物には、日本画家寺崎広業(1866～1919)、岐阜師範学校長を勤めた棚橋衡平(1834～1910)などがいるが、それらと同一人物かは不明。

子ども向け物語集『新お伽十八番』(岡村書店、1911.2)を著し、1話のイソップ寓話の改作を載せる。

東州散史

本名等不明。同志社の学内雑誌『同志社文学』にしばしば投稿している。1888年に同志社英学校英学普通科を卒業した花畠健起が「花畠東州」の名でも投稿しているので、花畠か。

同志社英学校の学内団体、同志社文学会の機関誌『DOSHISHA 文学会雑誌』

(誌名は時期により『同志社文学』等種々に変わる)第13号(1888.5)に「エソップ物語抄訳」と題して2話のイソップ寓話を翻訳して載せる。

東城鉦太郎 (1865～1929)

江戸雑司ヶ谷に生まれた画家。特に戦争画で知られる。

西村酔夢編『少年世界文学第五編イソップのはなし』(富山房、1902.12)の挿絵を描く。

徳田秋声(1872～1943)

金沢出身で、自然主義文学の大家といわれた小説家。

上田万年『新訳伊蘇普物語』(鐘美堂、1907.11)の本文作成に協力する。一時英語教師をしていた時期もあり、英語に通じていたので、協力を請われたのであろう。

徳富蘇峰(1863～1957)

本名猪一郎。熊本藩の郷土の家に生まれる。民友社を設立し、『国民の友』『国民新聞』などを創刊した言論人。文化勲章受章。

民友社系『家庭雑誌』を1892年9月に創刊する。これにイソップ寓話が15話採られている。また仮名草子『伊曾保物語』古活字版寛永十六年刊第二種本、整版万

治二年刊本下巻（いずれも現石川武美記念図書館蔵）を一時所蔵する。

ドミートリエフ Ivan Ivanovich Dmitriev (1760 ~ 1837)

ロシアの詩人。寓意詩の中にイソップに基づく詩がある。

家庭雑誌社から刊行された『家庭雑誌』第20号（1893.12）にイソップに基づく1話の寓意詩が嵯峨の家主（嵯峨の家おむろ）の訳で載る。

富岡永洗 (1864 ~ 1905)

松代藩士の家に生まれる。美人画、また挿絵の分野で名声を得た日本画家。

2話のイソップ寓話を載せる、修身教科書『尋常小学単級修身書』（金港堂書籍、1900.10）の挿絵を梶田半古と共に担当する。

外山正一 (1848 ~ 1900)

江戸で旗本の家に生まれる。開成所の教員で、渡部温と同僚。維新後はアメリカ留学を経て帝国大学総長、文部大臣などの要職に就く。

1866年～1868年にかけて幕府の留学生としてイギリスに滞在する。Thomas James の *Aesop's Fables* を日本に持ち帰り、渡部温に貸与する。渡部はこれの英文のままの翻刻『英文伊蘇普物語』（渡部温、1872）、これを中心として翻訳した『通俗伊蘇普物語』（山城屋、1873.4）を出版する。外山自身も『RŌMAJI ZASSHI』第1号（1885.6）に、イソップ寓話を訳した「シシトネズミノハナシ」を載せる。

トリゴー Nicolas Trigault (1577 ~ 1628)

中国名、金尼閣。1610年中国に渡った

イエズス会の宣教師。イソップ寓話の漢訳『況義』（1625）を著す。ただし内田慶市は、トリゴー一人の手になるのではなく、宣教師たちの共同訳だろうという。写本で伝わる。日本にも伝わったようだが、禁書とされる。

鳥山啓 (1837 ~ 1914)

紀伊田辺に生まれる。「軍艦行進曲（軍艦マーチ）」の作詞者、南方熊楠の師として知られる。

和歌山師範学校教員であった時に、国語教科書『初学入門』（和歌山県学務課、1877.9）に2話のイソップ寓話を載せる。

とろや山人

本名等不明。

矢野竜溪が始め、国木田独歩が編集者となった文芸雑誌『新古文林』第1・3・5号（1905.5 ~ 8）に「伊曾保物語」と題して28話のイソップ寓話を執筆し載せる。

那珂通高 (1827 ~ 1879)

秋田藩医の家に生まれる。維新後文部省に出仕し、『古事類苑』『小学読本』などの編纂に携わる。

2話のイソップ寓話を載せる、田中義廉『小学読本』（文部省、1873.3）を改訂した『小学読本（大改正本）』（文部省、1874.8）の改訂者。また1話のイソップ寓話を載せる、漢加斯底爾（ファン・カステール）『小学修身口授』（1875.7）の校訂者。

中尾傘瀬

1905年から07年にかけて、堺利彦が創始した『家庭雑誌』にしばしば投稿し

ているのが知られる。

『早稲田文学』1907 年 4 月号に「イソップ物語と毛利元就遺訓」と題した文章で、毛利元就の「三本の矢」の遺訓をイソップ由来とする論を展開するが、同誌同年 6 月号で「失名氏」に疑問を呈される。

中川重麗 (1850 ～ 1917)

京都西町奉行の家に生まれる。理科教育、また美学者、俳人としてなど多方面の分野で功績を残している。

読本教科書『尋常小学明治読本』(二西楼・積小館、1887.7) に、5 話のイソップ寓話を載せる。

中川将行 (1848 ～ 1897)

徳川家の沼津兵学校で学んだ後、海軍で教官を務める。数学教育に大きな功績を残している。

『泰西世説』(種玉堂、1874.11) にイソップ寓話を 8 話載せる。

中川柳涯

歴史物語や実用的な文章作法の著作が多くある。

1909 年前後に島鮮堂から刊行された少年向け読み物『明治少年お伽噺』シリーズの編著者。その 4 編に 5 話のイソップ寓話を載せ、それに基づく唱歌を作詩する。1910 年頃から同じく島鮮堂から刊行された『絵入日本お伽噺』シリーズの附録「少年教育お伽噺」の 6 編に 6 話のイソップ寓話を載せる。また全 150 話を収めるイソップ寓話集『ポケット伊蘇普物語』(日吉堂、1910.10) を編集する。同書は渡辺松茂の『家庭教育小学修身はな

し』『家庭教育幼年修身はなし』(ともに、積善館、1891.12) の影響が強い。

中島操

栃木県師範学校教員で、小学生向け教育書をいくつか著している。

伊藤有隣との共編の読本教科書『小学読本』巻三～六(集英堂、1881.12 ～ 1882.2) に、4 話のイソップ寓話を載せる。

永島春暁

明治期の浮世絵師。歌川芳虎の弟子。森本順三郎が著した子ども向け絵入り教訓話集『児童教話図会』(森本順三郎、1891 .8) の絵を担当し、イソップ寓話「アリとハト」の絵を描く。

中田敬義ナカダ・タカノリ (1858 ～ 1943)

金沢出身の外交官。榎本武揚、陸奥宗光の二人の外務大臣に秘書官として仕え、信任を得る。外務省政務局長を最後に 1898 年退官。退官後は古河合名会社の重役、また日本美術協会の副会頭に就いている。

東京外国語学校で中国語を学んでいた 1876 年に、校長の渡部温から渡部の『通俗伊蘇普物語』(山城屋、1873.4) を北京官話に翻訳することを提案され、『北京官話伊蘇普諭言』(渡部温、1879.4) と題して北京公使館員時代に刊行する。当時の公使は宍戸璣。

中根淑 (1839 ～ 1913)

江戸に生まれた旧幕臣。徳川氏の沼津兵学校の教員も務める。出版社金港堂に招かれ、二葉亭四迷や山田美妙などの新しい文学者に発表の場を与える。

内田嘉一との共著の読本教科書『簡易

小学読本』(金港堂、1887.9)、『小学簡易科読本』(金港堂、1887.12)に、それぞれ2話、1話のイソップ寓話を載せる。

中院通茂(1631～1713)

権大納言、内大臣などに就いた公卿。

現天理図書館蔵の、仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第四種本に近い写本が伝中院通茂筆とされる。ただしこれを一時所蔵していた佐佐木信綱は通茂の書風とは異なるようだという。

中原貞七(1858～?)

盛岡で南部藩士の家に生まれる。1883年東京大学卒業後は主に東京の成立学会の舎長として教育界で活動する。

読本教科書『新定読本』(文学社、1887.6)、『高等読本』(文学社、1887.6)に、それぞれ6話、4話のイソップ寓話を載せる。

永峰秀湖(1859/61～1895)

会津藩の絵師、永峰晴水の子。松本楓湖に学び、歴史絵や挿絵を残している。

イソップ寓話を載せる、中原貞七の読本教科書『新定読本』(文学社、1887.6)、大和田建樹の修身教科書『尋常小学修身訓生徒用』(1892.9)の挿絵を担当する。

中牟田倉之助(1837～1916)

佐賀藩出身。慶応義塾に学び、維新後海軍軍人となり、海軍大学校長、枢密顧問官などを歴任する。

1865年に上海で清のイソップ寓話集『伊娑菩喻言』を購入した記録がある。

中村徳助

「アラビヤナイト」やサミュエル・スマイルズ「自助論」(小山内薫との共訳)

の翻訳などを手がけた著述家。

イソップ寓話などの翻案・改作を124話(うち28話はイソップではない)を収めた『新訳解説伊蘇普物語』(精華堂書店、1909.2)を著す。この後『世界新お伽』(盛林堂1910.12)という少年向け読み物を出しており、これには34話のイソップ寓話を載せる。両書に共通する話の文章は文語と口語の違いのみ。

中村菱花

画家。岡村書店(岡村盛花堂)の出版物のいくつかの挿絵を描いている。

イソップ寓話を含む、馬場直美『お伽百題』(岡村書店、1910.10)『イソップ物語』(岡村盛花堂、1910.11)、天籟山人『新お伽十八番』(岡村書店、1911.2)の挿絵を担当する。

奈倉次郎(1872～1947)

伊豆に生まれる。東京の錦城学校に学び、1908年山口高等商業学校教授となる。英語教育書を多く著述する。

C. Stickneyの*Aesop's Fables*から86話を選び註釈を付けた、青年英文学叢書『伊蘇普物語 一・二』(三省堂、1911.8、1913.11)を著す。共訳者菅野徳助。

夏目漱石(1867～1916)

江戸で名主の家に生まれる。本名金之助。近代を代表する小説家。

『朝日新聞』に連載した(1909.6.27～10.14)「それから」の7月29日掲載分で「牛と競争をする蛙と同じ事で、もう君、腹が裂けるよ。」とイソップ寓話を引用する。イソップの普及状況が窺える。翌年単行本化(春陽堂、1910.1)される。

苗村丈伯ナムラ・ジョウハク

生歿年は未詳だが、1694 年以降の歿。
彦根藩の侍医。元禄年間には京都にあって、盛んに実用書の類を執筆する。

笑話の類を集めた『理屈物語』（1667）に仮名草子『伊曾保物語』中巻第 5 話を改作して載せる。

檜林重兵衛（1750 ～ 1801）

オランダ通事。

立原翠軒による、水戸に招かれた重兵衛からの聞書『檜林雑話』（1799）に「イソホものがたりと云書は、昔イソヲヒスと云書の和解なり、古書也」との記述がある。

生川正香ナルカワ・タダカ（1804 ～ 1890）

伊勢津出身の国学者、風俗研究家。生川春朗とも。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第四種本（現天理図書館蔵）を一時所蔵する。

名和淵海→鎌田淵海

名和永年

絵師。日清戦争の錦絵などが知られる。

9 話のイソップ寓話を載せる、小池民次の修身教科書『尋常科生徒用初学修身書』（至誠館、1893.8）の挿絵を担当する。

西沢之介（1848 ～ 1929）

安芸出身。教科書会社国光社を創設すると共に女子教育に尽くし、日本女学校を創立する。

読本教科書『尋常小学読本』（国光社、1895.2）、『尋常小学国語読本』（国光社、1901.8）に、それぞれ 1 話、4 話のイソップ寓話を載せる。

西垣堯則

英語学習や倫理学関係の著作がある。

G.F.Townsend の *Three Hundred Aesop's Fables*、C.Stickney の *Aesop's Fables* から 200 話を選んだ『伊蘇普物語二百話』（立川文明堂、1911.1）を翻訳刊行する。

西片寒川

事績不明。

C. Stickney の *Aesop's Fables* を中心にイソップ寓話 166 話を収めた『教訓叢話イソップ物語』（井上一書堂、1910.4）を翻訳刊行する。

西野正勝

修身、作文などの教育書を著し、大阪の浜本明昇堂から刊行している。

小学生向けの学習書『尋常小学生徒教育』（浜本明昇堂、1891.7）及びその一部を独立して出した『尋常小学生徒修身話』（浜本明昇堂、1892.1）に 25 話のイソップ寓話を載せる。

西村茂樹（1828 ～ 1902）

江戸で佐野藩士の家に生まれる。明治期の啓蒙思想家。儒教を基とした道徳を説く。

2 話のイソップ寓話を引用する Richard Whately の *Easy Lessons on Money Matters* (1833) を英語のまま翻刻した渡部温『経済説略』（渡部温、1869）を翻訳して『経済要旨』（文部省など、1874.6）と題して刊行する。

西村酔夢（1879 ～ 1943）

本名真次。三重県宇治山田に生まれる。1905 年東京専門学校国語漢文・英文学科を卒業。同校で坪内逍遙の教えを受ける。

新聞記者、歴史学者、文化人類学者。早稲田大学教授。

イソップ寓話全 24 話を収める『少年世界文学第五編イソップのはなし』(富山房、1902.12) を編集する。

西邨貞 (1854 ～ 1904)

足利藩士の家に生まれ、イギリス留学後、教育者、教育理論家として名を成す。

読本教科書『幼学読本』(金港堂、1887.5) に、5 話のイソップ寓話を載せる。

西村寅二郎

文廼家主人とも。1890 年代に都々逸、端唄などの本をいくつか著している。

修身読み物『教育修身談』(東雲堂、1892.1)、その改題本『教育修身美談』(大日本図書出版社、1896.3) に 17 話のイソップ寓話を載せる。ただし、この二書は小池清『通俗修身談』(共同出版社、1891.10) と全く同内容である。また『修身立志談』(東雲堂、1892.5) に、111 話のイソップ寓話を載せる。

西森武城 (1861 ～ 1913)

松山出身の滑稽作家。瘦々亭骨皮道人とも。笑話の類や狂詩、狂句で活躍する。

子供演説読み物『通俗教育演説』(幹盛堂、1889.12) に、2 話のイソップ寓話を載せる。また笑話集『面白叢談』(共隆舎、1891.11) に 1 話イソップ寓話に基づく話を載せる。

納所弁次郎 (1865 ～ 1936)

江戸で幕臣の家に生まれる。学習院などで教鞭を執った音楽教育者、作曲家。

1901 年に発表された、イソップ寓話に基づく唱歌「うさぎとかめ」(「もしもし

かめよ、かめさんよ」の出だしで知られる) の作曲者。作詞者は石原和三郎。

能勢栄 (1852 ～ 1895)

旧幕臣。アメリカに留学後、長野・福島などの師範学校長を歴任した教育学者。ヘルバルト学派の翻訳・紹介に努める。

修身教科書『尋常小学修身書生徒用』(金港堂書籍、1892.2) に、11 話のイソップ寓話を載せる。修身用教科書『尋常小学修身書初歩生徒用』(金港堂書籍、1892.3) に、3 話のイソップ寓話を載せる。

野田滝三郎

樋口勘次郎との共著で教育関係書をいくつか刊行する。

修身教科書『尋常修身教科書入門』(金港堂書籍、1901.5)、国語教科書『尋常国語教科書』(金港堂書籍、1901.6)、『高等国語教科書』(金港堂書籍、1901.6) に、それぞれ 3 話、5 話、1 話のイソップ寓話を載せる。いずれも樋口との共著。

野々口立圃 (1595 ～ 1669)

雛屋立圃とも。京都に生まれ、絵師、俳諧師として活躍する。

大槻如電「伊曾保物語のものがたり」(『此花』第四枝、1910.4) によれば、立圃の書画による卷子本の絵入り『伊曾保物語』を大槻は見たという。これを現天理図書館蔵卷子本『伊曾保物語』と見なす説があるが、これは立圃筆とは認められない。

長谷川元吉

後述の『英語之日本』に「東京外国語学校」と肩書きがあるので、同校の教員であったと思われる。

建文社から刊行された英語学習雑誌『英語之日本』の第2巻第1～13号(1909.1～12)、第3巻第7号(1910.6)に「イソップ物語詳解」と題して、17話の英文イソップ寓話に「和訳」「註釈」を加える。

馬場直美

文章作法の本、ヨーロッパの文豪の文を集めた『通俗泰西文芸名作集』(帝国講学会、1925.4)などの著書がある。

子ども向け物語集『お伽百題』(岡村書店、1910.10)に47話のイソップ寓話を載せる。また257話を収めたイソップ寓話集『ポケット新訳イソップ物語』(岡村盛花堂、1910.11)を編集する。

ハビアン→不干ハビアン

林吾一(1851～1910)

広島藩の出身。東京師範学校を卒業後、各地の師範学校で教員、校長を歴任する。教育関係の著訳書が多い。

新保磐次との共著による読本教科書『温習日本読本』(金港堂、1888.8)に、5話のイソップ寓話を載せる。

林若樹(1875～1938)

東京の医家に生まれる。生業に就かず、古書の収集に努める。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第六種本(現重山文庫蔵。無刊記第五種本とする文献もあるが誤り)を一時所蔵する。

原亮策(1869～?)

金港堂社主原亮三郎の長男。

読本教科書『小学読本初等科』巻四・五(金港堂、1883.9～10)を纂述し、12話のイソップ寓話を載せる。ただし、当

時原は数え15歳であり、府川源一郎は原の纂述に疑問を呈している。

パリー Charles A. Parry

高知において旧制中学校の英語教師であったと思われる。

旧制中学校の平易な英語教科書 *Fables from Aesop in Short Sentences* (興文社、1904.7)の編者。同書はイソップ寓話71話を収める。

伴成高

大阪の鐘美堂から美談読み物を出しているのが知られる。

篠田正作『少年教育子供演説指南』(鐘美堂、1892.1)の改訂版である『子供演説』(鐘美堂、1900.9)に1話のイソップ寓話を載せる。

晩翠禅史

本名等不明。土井晩翠(1871～1952)と関係あるか。

臨済宗妙心寺派の信徒団体、仏教花園婦人会の機関誌『花の園生』第34号(1893.11)に2話のイソップ寓話を翻訳して載せる。訳者は「桜外生」ともある。
パントーハ Diego de Pantoja (1571～1618)

中国名、龐迪我。スペイン出身のイエズス会士。1597年マカオに渡り、以後マテオ・リッチの活動を支える。

キリスト教教理書『七克』(1614)を刊行する。同書はイソップ寓話を含む。日本では禁書とされた。

東基吉(1872～1958)

和歌山県新宮出身。東京師範学校を卒業し、各地の師範学校長を歴任した、幼

児教育の先駆者。後述の『家庭童話母のみやげ』『教育童話子供の樂園』刊行当時は東京女子師範学校教授。

東が中心となってフレーベル会が発行した幼児教育・婦人教育の月刊誌『婦人と子ども』第1巻第7号～第8巻第6号（1901.7～08.6）に92話のイソップ寓話が、「牧羊訳」あるいは訳者無記名で載るが（1話は「弥彦」名）、多くは東の訳と思われる。童話集『家庭童話母のみやげ』（同文館、1905.10）、『教育童話子供の樂園』（同文館、1907.4）を著し、前者に10話の、後者に10話のイソップ寓話を載せる。また前者には、イソップ寓話に基づく「兎と亀」という東作詞の唱歌も載る。ただしこれはよく知られる唱歌「うさぎとかめ」とは異なる。

樋口勘次郎（1872～1917）

長野県出身。東京高等師範学校卒業後、ヨーロッパに留学し、教育学者として活躍する。

野田滝三郎との共著、修身教科書『尋常修身教科書入門』（金港堂書籍、1901.5）、同じく野田との共著、国語教科書『尋常国語教科書』（金港堂書籍、1901.6）、『高等国語教科書』（金港堂書籍、1901.6）に、それぞれ3話、5話、1話のイソップ寓話を載せる。当時樋口は留学中であり、実質的な著者は野田か。

久松義典（1855～1905）

桑名藩家老の家に生まれ、栃木県師範学校教員の後、民権運動家、新聞記者として活動する。『社会小説東洋社会党』（文学同志会、1901.6）の著書を持つ。

読本教科書『新撰小学読本』（金港堂、1880.2）に、2話のイソップ寓話を載せる。

菱川師宣（1618？～1694）

安房生まれの絵師。浮世絵を確立し「浮世絵の祖」と称される。

笑話本『噺かのこ』（1692）に、仮名草子『伊曾保物語』に基づく1話があり、その挿絵を描く。

平井美津

事績不明。

修身読み物『修身譚』（一二三館、1893.2）に、7話のイソップ寓話を載せる。

平田篤胤（1776～1843）

出羽久保田藩出身の国学者。復古神道を唱える。

刊行されなかった著書『本教外篇』（1806）にマテオ・リッチの『畸人十篇』（1608）から採ったイソップ寓話を載せる。

ファン・カステール Abraham Thierry van Casteel（1843～1878）

漢字名「漢加斯底爾」。オランダ出身の御雇外国人。1869頃来日し、御雇外国人として1871年豊津藩（旧小倉藩）の大橋洋学校で英語、フランス語、ドイツ語などを教える。1873年に上京し、いくつかの私立学校で語学教師を勤める。日本語を修得し、文部省で欧米教育書の翻訳に従事する。

修身教科書『小学修身口授』（文部省、1875.7）に、1話のイソップ寓話を載せる。

フォールズ Henry Faulds（1843～1930）

スコットランドで商人の家に生まれる。キリスト教プレスビテリアン（長老派）の宣教師、また医師として、1874 年来日し、築地に病院を開き、伝道に努める。日本における盲教育の先駆者であり、指紋の科学的研究においても功績がある。日本滞在記として *Nine Years in Nipon* (Alexander Gardner.1885) の著書がある。

視覚障害者のための教科書として凸字の『イソップモノガタリ』を 1881 年前後に出版する。本文は『通俗伊蘇普物語』に拠る。

フォンデル Joost van den Vondel (1578 ~ 1679)

オランダの国民的詩人。

イソップ寓話を含むオランダ語の韻文動物寓話集 *Vorstelijke Warande der Dieren* (1617) の編者。これが日本に渡り、加賀前田藩の前田直方の命により、1791 年に矢田四如軒が絵を、山口為範がオランダ語文を模写する。

深間内基 (1864 ~ 1901)

姓名を「深間・内基」とする文献もあるが、正しくは「深間内・基」。慶応義塾を出、高知立志社、宮城師範学校の教員を勤める。J. S. ミルの *The Subjection of Women* を『男女同権論』の名で訳したことで知られる。

『幼童教の梯』(稲田政吉他、1873.11) にイソップ寓話を 6 話載せる。

不干ハビアン (1565 ~ 1621)

イエズス会の日本人イルマン。天草版『ヘイケモノガタリ』(1592) の編者。後に棄教し、キリスト教を攻撃する『破提

宇子』(1620) を著す。

大槻如電は、不干ハビアンを『伊曾保物語』の翻訳者とする。

福井掬

福岡に在住し、修身書や漢文関係の書を著している。

宮本茂任との共著である修身教科書『小学必携修身読本』(三書房、1881.6) に 1 話のイソップ寓話を載せる。

福井孝治

大阪師範学校附属小学校の教員であったか。いくつかの著書を持つ。

修身教科書『下等小学修身談』(浅井吉兵衛、1878.2) に、1 話のイソップ寓話を載せる。

福井佐平義真

事績不明。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第七種本(現天理図書館蔵)を一時所蔵し、渡辺鶴堂へ譲る。

福沢英之助 (1847 ~ 1900)

本名和田慎次郎。中津藩出身。1866 年の幕府によるイギリス留学生派遣に際し、同郷の福沢諭吉が弟として偽名を使わせた。啓蒙的な著訳書がいくつかある。

イギリス滞在中に G.Fyler Townsend の *Three Hundred Aesop's Fables* を入手し、1868 年持ち帰る。それから 91 話を選んで翻訳し、『訓蒙話草』(1873.12) と題して刊行する。同書の最初の日本語訳だが、原文に忠実ではない。これには原本の挿絵に基づく 35 図の絵も載せる。また英語のリーダー類を訳して編集した『初学読本』(福沢英之助、1873.5) にイソップ寓

話を1話載せる。

福沢諭吉 (1835 ~ 1901)

中津藩出身。幕末から明治にかけての思想家、教育者。慶応義塾を創設する。

W.Chambers&R.Chambers の *The moral class-book* を翻訳した『童蒙教草』(尚古堂、1872.6) を刊行する。これにイソップ寓話 13 話が引用されている。

富士川游 (1865 ~ 1940)

安芸出身の医師。『日本医学史』(裳華房、1904.10) を著した日本医学史研究の先駆者。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版寛永十六年刊記第一種本(旧安田文庫蔵)を一時所蔵する。

藤沢梅南 (1835 ~ 1881)

蘭学の桂川家に生まれるが、旗本藤沢家を継ぐ。幕末には軍艦奉行、陸軍奉行、陸軍副総裁の職を歴任する。維新後は徳川家の沼津兵学校教授に就き、渡部温と同僚となる。絵も嗜み、洋画を学ぶ。

渡部温の『通俗伊蘇普物語』(山城屋、1873.4) に序を寄せる。また同書に挿絵 6 図を描く。いずれも原書である T. James の *Aesop's Fables* の挿絵に基づく。

富士見の里人

本名等不明。

教育雑誌『教育小供のはな誌』第4号(1887.9.10)に1話のイソップ寓話を訳し、載せる。

ふみ子

本名等不明。

キリスト教に基づく週刊の啓蒙婦人雑誌『女学雑誌』第243・247・255号

(1890.12 ~ 91.3) に3話のイソップ寓話を載せる。

文廼家主人

「文廼家主人」を称した人物は少なくとも鈴木源四郎(『少年教育修身はなし動物の巻』の著者)、須永金三郎(『日本之少年』主筆)、西村寅二郎(『教育修身談』の著者)の3人が認められるが、以下の人物は当時博文館にいた須永か。

博文館から刊行された尋常小学生向けの雑誌『幼年雑誌』第1巻第3号(1891.2)に1話のイソップ寓話を訳し、載せる。

ヘーラルツ Marcus Gheeraerts (1521 ? ~ 1590 頃)

生年は1516年から1521年の間とされる。フランドル生まれの画家だが、イングランドに渡って活躍する。同名の息子も画家なので、英語では氏名の後に the Elder を付けて呼ばれる。

フォンデルの動物寓話集 *Vorstelijke Warande der Dieren* (1617) の挿絵を描く。この書が日本に伝わり、矢田四如軒が1791年に絵を模写する。これらの絵は、元来はフラマン語の動物寓話集、Edwaert de Dene の *De Warachtlige Fabulen der Dieren* (1567)、そのフランス語版 *Esbatement Moral des Animaux* (1578) の挿絵に用いられたものである。

日置岩吉

日置自身が創設したと思われる大阪の出版社、赤志忠雅堂から運動遊戯本や音楽本を出している。

赤志忠雅堂から刊行した小学生向け修身読み物『小学生徒修身教育晰』で、第

1 編 (1888.6) に 19 話、第 2 編 (1888.9) に 8 話、第 3 編 (1888.9) に 1 話、第 5 編 (1888.11) に 4 話、イソップ寓話を載せる。

牧羊

東基吉の筆名と思われる。

フレーベル会が刊行した幼児教育、婦人教育の雑誌『婦人と子ども』第 3 巻第 2～7 号 (1903. 2～7) に 28 話のイソップ寓話を訳し載せる。同誌掲載の訳者無記名のイソップ寓話も多くは牧羊訳か。

堀三友

山形出身、帝国大学を卒業した法学士。後述の『伊蘇普実伝』のある版には「法学博士」ともある。1889 年から 1891 年にかけて、フランス語の法律書からの訳書、共著の法律書などが刊行されている。1895～98 年頃に歿したと思われる。

ラ・フォンテーヌの『寓話』中の「フィリギアの人イソップの生涯」を翻訳した『伊蘇普実伝』(救済新報社、1899.2) が死後、刊行される。友人秋野繁吉との共編となっているが、訳業はほぼ堀の手になると推測される。

堀中徹蔵

漢詩漢文関係を中心に著書を多数持つ。

教育散史の名で編した修身読み物『修身教育をしゑ草』(榊原友吉、1892.3) に 6 話のイソップ寓話に基づく話を載せる。

前川一郎

地理関係を中心にいくつかの教育書を著している。

丹所啓行との共編による修身教科書『普通小学修身談』(集英堂、1886.7) に、2

話のイソップ寓話を載せる。

前田儀作 (1864～1946)

播磨に生まれ、東京専門学校を卒業後、詩人、歌人として活躍する。号林外。

清代のイソップ寓話集『伊娑菩喩言』に、小野辰三郎による訓点を加えた『漢訳批評伊蘇普物語』(湊屋、1898.7) の編者。

前田香雪 (1841～1916)

本名夏繁。江戸に国学者前田夏蔭の子として生まれる。政治小説の著者、美術鑑定家として知られる。「伊曾保物語」連載時の絵入朝野新聞社社長。

『絵入朝野新聞』に仮名草子「伊曾保物語」が連載されるに当たって「旧訳伊曾保物語の考」(1885.9) を書く。

前田直方 (1748～1823)

加賀前田家の分家前田土佐守家の第六代当主。1791 年にフォンデルの *Warande der Dieren* の一部を矢田四如軒、山口為範に模写させる。

増川蚶雄

広池千九郎『新編小学修身用書』(吉岡平助、1888.12) の校閲者となっていることが知られる。

山名留三郎らとの共著『錦絵修身談』(普及舎、1882.3) に 2 話のイソップ寓話に基づく話を載せる。

松本楓湖 (1840～1923)

常陸に生まれる。菊池容斎に学んだ日本画家。歴史画に長じ、また挿絵も多い。

イソップ寓話を載せる、内田嘉一の読本教科書『小学中等科読本』(金港堂、1882.5)、その増補版『増訂小学読本』(金

港堂、1886.11) の挿絵を担当する。

マテオ・リッチ Matteo Ricci (1552 ~ 1610)

中国名、利瑪竇。イタリア出身のイエズス会士。1582 年マカオに渡り、以後中国各地で活動する。ヨーロッパの知識を中国に、また中国文化をヨーロッパに紹介、大きな影響を与える。

中国語の著書『畸人十篇』(1608) にイソップ寓話を引用する。これは江戸時代には禁書とされたが、平田篤胤『本教外篇』(1806) に採り入れられる。

三浦源助 (1831 ~ 1912)

美濃出身の出版人。岐阜県で成美堂を創設する。1886 年には東京にも支店を出す。

修身の教師用書『小学修身全書』上・下巻(成美堂、1891.9・11) に、31 話のイソップ寓話を載せる。

三浦茂樹

1830 ~ 50 年代に漢字書などの著述のある同名の者がいる。同一人物か。

西園寺家に伝わる西園寺実輔筆写の仮名草子『伊曾保物語』の卷子本一軸(現天理図書館蔵)を、1842 年に西園寺寛季から与えられる。

三浦梅園 (1723 ~ 1789)

豊後の医家に生まれる。医師をしつつ、独自の思想を形成する。

反キリシタンの著書『五月雨抄』(1784) で、イソップ寓話を載せるマテオ・リッチ『畸人十篇』、パントーハ『七克』、イソップ寓話集ニコラス・トリゴー『況義』が禁書であったことを記述する。

三尾重定

著書に拠れば、岐阜県出身の士族。幅広く教育書を多く著す。

読本教科書『新編小学読本』(教育書院、1886.3) に、3 話のイソップ寓話を載せる。

水谷不倒 (1858 ~ 1943)

本名弓彦。名古屋出身。東京専門学校で坪内逍遙に師事する。小説家でもあったが、江戸文学の研究の先駆者として著作に努める。

「文学史上の寛文附イソップの翻訳」(『早稲田文学』第 14 号、1896.7) で、仮名草子『伊曾保物語』整版万治二年刊本に言及する。古活字版の存在を知らず不備ではあるが、学術的な紹介としては最初のものである。これは引用話を変えて『列伝体小説史』(春陽堂、1897. 5) に収録される。また明治 40 年前後と思われるが、仮名草子『伊曾保物語』の校訂をてがけようと試みて、果たすことなく終わる。その未完資料が現在天理図書館にある。

三田利徳

東京の柳北小学校長であったと思われる。教科書、児童向け教育書をいくつか著している。

鈴木幹興との共編の読本教科書『啓蒙小学読本』(光風社、1885.6) に、2 話のイソップ寓話を載せる。

宮規子

事績不明。

キリスト教に基づく週刊の啓蒙婦人雑誌『女学雑誌』第 159 号(1889.4) に 1

話のイソップ寓話を翻訳し、載せる。

三宅花塘

子ども向け図書のいくつかに挿絵を描いている。

武田博盛堂から刊行された『少年お伽噺』シリーズ中の第 11 編（1909.1）の附録「幼年お伽噺」に載ったイソップ寓話の翻案の挿絵を描く。

三宅米吉（1860 ～ 1929）

和歌山藩士の家に生まれた教育者、歴史学者。各地の師範学校で教えた後、出版社金港堂に入る。東京文理科大学の初代学長。

金港堂時代に、新保磐次との共著による読本教科書『高等日本読本』（金港堂、1888.5）に、6 話のイソップ寓話を載せる。

宮本茂任

福岡に在住し、修身書や漢文関係の書を著している。

福井掬との共著である修身教科書『小学必携修身読本』（三書房、1881.6）に 1 話のイソップ寓話を載せる。

向井元仲（1713 ～ 1789）

京都に生まれ、書物改役を世襲する向井家の養子となる。

近藤重蔵の『好書故事』に拠れば、元仲の『長崎書物改ノ旧記』に、イソップ寓話を載せる、明清代の『畸人十篇』『七克』及びイソップ寓話集『況義』が禁書であることが記されている。

室賀正祥

鯖江藩主で老中に就いた間部詮勝の子か。

『造花誌』（1873.12）にイソップ寓話を 3 話載せる。

黙言道士

本名不明だが、1891 年当時の学友館の代表三好守雄か。

修身読み物『修身教育為めになる話』（学友館、1891.4）に、7 話のイソップ寓話を載せる。同書の改題本に『少年教育はなし』（大日本図書出版、1896.3）がある。

元木貞雄

明治から大正にかけて英語学習書、少年向け図書を多く著している。

C. Stickney の *Aesop's Fables* の学習参考書『伊蘇普物語直訳講義』（小川尚栄堂、1899.8）を著す。

百島操（1880 ～ 1965）

トルストイ、グリム、アンデルセンなど多くの訳書がある。号は冷泉。

植村正久が創刊した日本基督教会の機関誌『福音新報』第 405 号（1903.4）に 3 話のイソップ寓話が「冷泉」名で載る。姓は不明だが、しばしば同誌に寄稿している百島であろう。また G. F. Townsend の *Three Hundred Aesop's Fables* から 70 話を選んで訳した『イソップ物語』（内外出版協会、1908.12）を出す。

森慎一郎

『教育論略』（教訓書院、1890.8）という著書があるのが知られる。

修身教科書『尋常小学修身書』（阪上平七、1892.3）に、5 話のイソップ寓話を載せる。

森下亀太郎（1869 ～ 1946）

備中松山で松山藩士の家に生まれる。

1894 年明治法律学校卒業後、判事、検事を経て弁護士、衆議院議員になる。

修身読み物『家庭教育日本修身談』（積善館、1892.4）を著し、イソップ寓話 1 話を載せる。

森島中良（1756？～1810）

江戸で、奥医師の桂川家に生まれる。蘭学者、また戯作者、狂歌師として多くの著作を持つ。

考証随筆『鄙都言種』前編（1796）を著し、同書に仮名草子『伊曾保物語』中の 1 話を引用する。

森本江南

事績不明だが、森本園二と、大阪在住、吉岡平助を出版人とする著書を出している点で共通する。あるいは同一人物か。

動物を題材とした読み物『少年文学動物園』（吉岡平助、1893.6）に 6 話のイソップ寓話を載せる。

森本順三郎

1863 年に江戸浅草で地本問屋を創業する。大正期まで営業する。

子ども向けの絵入り教訓話集『児童教話図会』（森本順三郎、1891.8）にイソップ寓話を 1 話載せる。

森本園二

受験書などを著しているのが知られる。森本江南と、大阪在住、吉岡平助を出版人とする著書を出している点で共通する。あるいは同一人物か。

修身のための教師用訓話集『新編小学修身事実全書』（盛文館、1891.10）に、9 話のイソップ寓話を載せる。

屋代弘賢（1758～1841）

江戸で幕臣の家に生まれ、家督を継ぐ。塙保己一に学び和学講談所の会頭を務める。また当時随一の蔵書家でもあった。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第五種本（現宮内庁書陵部蔵）を一時所蔵する。

矢田四如軒（1718～1794）

加賀の前田土佐守家の第六代当主前田直方の家臣。六郎兵衛と称す。同家の家老役。画家としても名をなす。

直方の命を受けフォンデルの *Vorstelijke Warande der Dieren* 中の 6 図を 1791 年に模写する。

柳河春三（1832～1870）

尾張藩出身で、洋学を学ぶ。開成所の教員で、渡部温の同僚。日本最初期の新聞『中外新聞』を発行する。

官准『中外新聞』第 23 号（1869.8）に『エソポのハブラス』上第 1 話を載せるイギリスの新聞を紹介する。

弥彦→小寺弥彦

山岡浚明ヤマオカ・マツアケ（1726～1780）

幕臣の和学者。考証に優れ、『類聚名物考』を著す。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第一種本（現東洋文庫蔵）を一時所蔵する。

山県悌三郎（1859～1940）

近江に生まれ、東京師範学校卒業後、教員を務めるが、雑誌『少年園』を 1888 年に創刊するなど在野で活躍する。

読本教科書『小学国文読本尋常小学校用』（文学社、1892.6）、『小学国文読本尋常小学校用片仮名交』（文学社、1892.9）に、それぞれ 4 話、3 話のイソップ寓話

を載せる。

山口為範

事績不明。

前田土佐守家の第六代当主前田直方の命を受け、フォンデルの *Vorstelijke Warande der Dieren* 中 6 話のオランダ語文を 1791 年に模写する。誤写があり、オランダ語を解していたとは思われない。

山崎美成 (1796 ~ 1856)

江戸で薬種商の家に生まれ家業を継ぐ一方、考証家として名を成す。

考証随筆『海録』で「さて又伊曾保物語と云草子三冊あり、元和寛永の比、やんごとなき方のかゝせ給ふ書と桂川氏いへり、最上氏話なり、此書蛮書を翻訳せし始なりとぞ」と仮名草子『伊曾保物語』に言及する。また仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第二種本（現龍門文庫蔵）を一時所蔵する。

山名留三郎

津藩に漢学・国学で仕えた家に生まれる。陸軍士官学校教授の漢学者。『資治通鑑』に訓点を施したことで知られる。

辻敬之らとの共著『錦絵修身談』（普及舎、1882.3）に 2 話のイソップ寓話に基づく話が載る。

山村才助 (1770 ~ 1807)

江戸で土浦藩士の家に生まれる。蘭学者として、主に地理書の翻訳・紹介に努める。

『西洋雑記』二編巻之一に「伊曾保物語の説」を記す。

山村亮作

東京の出版社幼談社の社主。

同社発行の小学生向け週刊雑誌『教育小供のはな誌』を編集し、同誌第 3 ~ 6 号 (1887.9) に 5 話のイソップ寓話の改作を載せる。

山本誉治

出版社済美館を創設したと思われる。

修身読み物『家庭教育修身書』（済美館、1894.12）に 6 話のイソップ寓話を載せる。

山本義俊

修身書をいくつか著している。

『修身学訓蒙』（弘成堂、1873.5）にイソップ寓話を 1 話載せる。

山本佳年

挿絵画家。後述の『絵入日本お伽噺』のいくつかに挿絵を描いている以外は事績不明。

1909 年頃から始まった、島鮮堂刊行の『絵入日本お伽噺』シリーズの附録「少年教育お伽話」の中で、イソップ寓話の載った 3 編の挿絵を描く。

やよひ生

本名等不明。

フレーベル会が刊行した幼児教育・婦人教育の雑誌『婦人と子ども』第 3 巻第 2 号 (1903.2) に 1 話のイソップ寓話を執筆し載せる。

弓場勘右衛門

江戸期の出版人。毛利貞斎の『古文真宝後集俚諺鈔』（1707）の刊記に「書林」として名を連ねていることが知られる。

筑波大学蔵の仮名草子『伊曾保物語』古活字版寛永十六年刊第一種本の下巻の刊記に当たる部分に「弓場勘右衛門（花押）」と墨書されている。実際に版元であ

ったかは不明。

養方軒パウロ（1508 頃～1596）

若狭生まれの日本人キリシタン。『サントスの御作業』の翻訳者の一人。

『エソポのハブラス』の訳者とする説がある。

横井命順

明治 20 年前後に小学校教員であったらしい。

秋原捨五郎との共著『小学修身教授案』（横井・秋原、1888.6）という教師用指導書に、14 話のイソップ寓話を載せる。

横山達三（1872～1943）

健堂の名でも知られる山口県出身の評論家。駒澤大学教授。維新関連の人物評論などで多くの著書を持つ。

著書『日本近世教育史』（同文館、1904.5）で仮名草子『伊曾保物語』に言及する。

吉沢富太郎

江東散史の名でも多くの著書をもつ。出版社開文堂を創設。

江東散史の名で著した尋常小学生向けの修身書『小学生徒教育修身の話』（開文堂、1889.9）に、5 話のイソップ寓話を載せる。この書の一部を『教育修身の鑑』（鈴木万次郎、1892.12）と改題して刊行する。修身読み物『幼稚修身のをしへ』（開文堂、1889.12）に、4 話のイソップ寓話を載せる。また『家庭教育修身をしへ草』（開文堂、1890.1）に、5 話のイソップ寓話を載せる。

吉田潔

英書からの翻訳書、英語の教科書・学習書の著作がある。

C. Stickney の *Æsop's Fables* の学習参考書である『独学自修イソップ物語』（金刺芳流堂、1910.3）を著す。

吉田賢輔（1838～1893）

江戸で幕臣の家に生まれ、蕃書調所で翻訳に従事する。維新後は慶応義塾の創設に関わり、塾長となる。

読本教科書『初学読本』（汎愛堂、1886.10）に、6 話のイソップ寓話を載せる。

吉田静

事績不明。

読本教科書『女兒読本下等科』（吉田静他、1885.2）に、2 話のイソップ寓話を載せる。

吉田松陰（1830～1859）

長州藩出身の武士。明治維新の精神的支柱となった幕末の思想家、教育者。

長州藩士穴戸璣が 1856 年に写した清代のイソップ寓話集『伊娑苦諭言』を見せられ、岡部富太郎に写させる。これを読んで 1857 年に「跋伊娑苦諭言」を記し、西欧列強による侵略に警言を発する。

吉田利行

福岡在住で、修身、漢文関係の著書を多く持つ。

修身教科書『小学修身鑑補』（魁玉堂、1887.6）に、2 話のイソップ寓話を載せる。

吉見経綸

教育関係を中心に、多くの著書、訳書を持つ。

修身教科書『初等小学修身訓』（石川書房、1881.6）に 2 話のイソップ寓話を載

せる。また鈴木青溪『新訳伊蘇普物語』（積善館、1892.5）に序を寄せる。

万屋清兵衛

延宝年間（1673 ～ 81）から宝暦年間（1751 ～ 64）まで代々営業した江戸の書肆。

仮名草子『伊曾保物語』整版無刊記本の版元。

ラ・フォンテーヌ Jean de la Fontaine (1621 ～ 1695)

フランスの詩人。特にイソップ寓話に基づく寓話詩集 *Fables* 『寓話』（1668）はフランス人の共通知識となっている作品である。

石川大浪がフランスのイソップ寓話集を蔵していたとの記録があり、これがラ・フォンテーヌの『寓話』であった可能性がある。明治期には、『寓話』中の「フィリギア人イソップの生涯」が堀三友・秋野繁吉『伊蘇普実伝』（救済新報社、1899.2）に翻訳されている。

冷泉→百島操

ロドリゲス Ioao Rodriguez (1561 ? ～ 1633)

ポルトガル出身のイエズス会士。1577 年来日し、日本語を修得する。主に通事として活動する。*Arte da Lingoa de Iapam*（『日本大文典』長崎学林、1604 ～ 1608）など日本文化史上重要な著書を遺す。

『日本大文典』にイソップ寓話を例文として 90 カ所引用する。『エソポのハbras』とも仮名草子『伊曾保物語』の文とも異なるところがある。*Arte Breve da Lingoa Iapoa*（『日本小文典』マカオ、1620）

に仮名草子『伊曾保物語』中の一文とほぼ同じ文を 2 カ所に引用する。

ロバート・トーム Robert Thom (1807 ～ 1846)

中国名は羅伯珮。イギリス出身で、1834 年広東に至り中国語を習得する。以後商人あるいはイギリス軍属として活動し、寧波のイギリス領事に就く。

L'Estrange の英語イソップ寓話集から 82 話を中国語に訳し『意拾喻言』（The Canton Press、1840）と題して刊行する。これの改訂版『伊娑菩喻言』（上海施業院、1853 頃。他からも出版される）が日本に伝わり、『漢訳伊蘇普譚』（青山清吉、1876.10）、『漢訳批評伊蘇普物語』（湊屋、1898.7）の名で日本でも出版される。

ワグマン Charles Wirgman (1832 ～ 1891)

イギリス人の画家。*Illustrated London News* の特派員として 1861 年に来日し、翌年には諷刺漫画雑誌 *Japan Punch* を創刊する。日本人画家にも影響を与える。

『万国新聞紙』第 15 集（1869.2）に T.James の *Æsop's Fables* の第 76 話の J.Tenniel の挿絵を模写した「束木の昔噺」を載せる。

ワイル Harrison Weir (1824 ～ 1906)

イギリスの画家。

G.F.Townsend の *Three Hundred Æsop's Fables* の挿絵 50 点を描く。

若菜胡蝶園 (1853・54 ? ～ 1918)

本名貞爾、上総に生まれる。仮名垣魯文の弟子となって、新聞記者の傍ら戯作を執筆する。

田中達三郎訳『寓意勸懲伊蘇普物語』(木村多喜、1888.3)の校正者として名が挙がっている。

若林虎三郎(1855～1885)

名古屋で尾張藩士の家に生まれる。1875年東京師範学校卒業後同校訓導となって教育に従事する。

読本教科書『小学読本』(嶋崎磯之蒸、1884.6)に、1話のイソップ寓話を載せる。

和田維四郎ワダ・ツナシロウ(1856～1920)

若狭小浜藩士の家に生まれる。ドイツ留学後、日本における鉱物学の先駆者として、学界、官界で活躍する。一方で雲村と号し、書誌学者として、また古書収集家としても知られる。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第一種本(現東洋文庫蔵)を一時所蔵する。明治期かは不明だが、1918年以前には入手している。

和田篤太郎(1857～1899)

美濃出身の出版人。1878年頃に書肆春陽堂を創設する。同社は明治を代表する文芸出版社となる。

大久保夢遊に『伊曾保物語』の出版を促し、1886年に春陽堂から出版する。

和田万吉(1865～1934)

大垣で大垣藩士の家に生まれる。東京帝国大学国文科を卒業し、後には同大学図書館長に就く。図書館学の導入者として知られる。

年少者向け修身読み物『家庭教育修身はなし』(双々館、1890.7)を著し、イソ

ップ寓話を7話載せる。

渡辺鶴童

事績不明。

仮名草子『伊曾保物語』古活字版無刊記第七種本(現天理図書館蔵)を福井佐平義真から譲り受ける。

渡辺修二郎(1855～?)

福山藩士の家に生まれる。東京英語学校、立教学校で学び、英語教師を経て大蔵省に勤め、山口県内務部長となる。政治評論家として活躍し、また明治文化に関する著作が多い。蔵書家としても知られ、アーネスト・サトウ、陸奥宗光らと交わる。

「遠近新聞」第27号(1868.5)にイソップ寓話が掲載されていることを新村出に伝える。また官准「中外新聞」第23号(1869.8)に『エソポのハブラス』上第1話が載っていることを新村出に伝える。いずれも1912年のこと。

渡部温ワタナベ・タズヌ(1837～1898)

江戸で幕臣の家に生まれる。洋学を学び、洋書調所、開成所で教える。維新後、徳川家の沼津兵学校教授、また東京外国語学校校長に就く。後には実業家として活躍する。

2話のイソップ寓話を載せた『中外新聞外篇』(1868)の編集人である。Richard Whatelyの*Easy Lessons on Money Matters*(1833)を英語のまま『経済説略』(渡部温、1869)と題して出版する。これには2話イソップ寓話が引用されており、後に『通俗伊蘇普物語』の翻訳に際しても参考にする。外山正一がイギリスで入手

した T. James の *Æsop's Fables* (初版 1848) の 1863 年版によって英文そのままに翻刻した『英文伊蘇普物語』(渡部温、1872。山城屋、1873) を出版する。James 本 203 話を全訳し、さらに G. F. Townsend の *Three Hundred Æsop's Fables* (1867) から 26 話、仮名草子『伊曾保物語』から 8 話を選んで全 237 話を収録した『通俗伊蘇普物語』(山城屋、1873.4) を刊行する。この書はイソップ寓話の普及に大きく貢献し、以後のイソップ寓話の翻訳に与えた影響も大きい。明治期に一般的である、イソップの音訳「伊蘇普」も渡部の発案である。この改訂増補版『改正増補通俗伊蘇普物語』(渡部温、1888.12。James 本 203 話、Townsend 本 70 話、仮名草子『伊曾保物語』7 話の全 280 話)、その中の James 本、Townsend 本からの 273 話の英語原文を収めた『改正増補通俗伊蘇普物語原書』(渡部温、1888) を刊行する。また中田敬義に『通俗伊蘇普物語』を北京官話に翻訳させ、『北京官話伊蘇普諭言』(渡部温、1879.4) を出版する。渡部は羅馬字会とも関係があり、1885 ～ 87 年にかけて『RŌMAJI ZASSHI』に『通俗伊蘇普物語』の 20 話が載る。

渡辺政吉

小学校用の各種教科書を著している。

読本教科書『単級小学尋常日本読本』(金港堂書籍、1892.12)、その改訂版『単級小学修正尋常日本読本』(金港堂書籍、1901.11) に、3 話のイソップ寓話を載せる。

渡辺松茂

号を黄薇という。大阪の人で、児童・生徒向けの英書の翻訳書や学習書を多く大阪の積善館から出している。

英米の英語教科書や G. F. Townsend の *Three Hundred Æsop's Fables* (1867) などを訳した『家庭教育小学修身はなし』(積善館、1891.12)、『家庭教育幼年修身はなし』(積善館、1891.12) を著す。両書は「イソップ」の名はないが、事実上イソップ寓話集である。前者は 129 話、後者は 152 話(1 話のみ非イソップ)を収める。翌年、両書を合冊しただけの改題本『新訳伊蘇普物語』が積善館から刊行されるが、何故かこれは鈴木青溪訳となっている。